IBM Marketing Operations バージョン 9 リリース 0 2013 年 1 月 15 日

インストール・ガイド



- お願い -

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、109ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Operations バージョン 9 リリース 0 モディフィケーション 0 および新しい版で明記されて いない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

- 原典: IBM Marketing Operations Version 9 Release 0 January 15, 2013 Installation Guide
- 発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 担当: トランスレーション・サービス・センター
- © Copyright IBM Corporation 2002, 2012.

目次

第1章	IBM	イン	ンフ	ヽト	—,	ん	<u>の</u> が	퇃俿	莆				1
Marketing	Operati	ons	お。	よび	Ma	arke	eting	g P	latf	orn	n 0	0イ	
ンストール	▶先 .												1
前提条件.													2
システ.	ム要件												2
Marketi	ng Plati	form	の	要件	÷.								2
知識要	牛												2
クライン	アント	• 7	シン	/ .									3
アクセン	ス権限												3
詳細情報0	D参照先	<u>.</u>											3
アップグレ	/ードの)場合	÷.										4

第2章 IBM Marketing Operations デー

タ・ソースの準備..........	. 5
ステップ: Marketing Operations データベースのセッ	ト
アップ	. 5
ステップ: JDBC ドライバーの Web アプリケーショ	
ン・サーバーを構成する	. 5
ステップ: JDBC 接続を Web アプリケーション・サ	
ーバーに作成する	. 6
JDBC 接続を作成するための情報	. 7
Marketing Operations データ・ソース情報のチェック	
リスト	. 9

第3章 IBM Marketing Operations の

インストール	11
IBM EMM インストーラーの機能	11
インストーラー・ファイルの単一ディレクトリー	
要件	11
製品インストール・ディレクトリーの選択	11
インストール・タイプ.........	12
インストール・モード.........	12
無人モードを使用して複数回インストールする	13
クラスター配置用 EAR ファイルの作成...	14
IBM サイト ID	15
ステップ:インストール・アーカイブの入手	15
ステップ:必要な情報の取得	15
JAVA_HOME 環境変数の確認	17
ステップ: IBM インストーラーを実行する	17
インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成す	
る方法	18
インストール・プロンプトの例	19

第4章 配置前の IBM Marketing

Operations の構成	23
ステップ: umodbsetup ユーティリティーを使用し	
た、Marketing Operations システム・テーブルの作成	
およびデータの追加 (必要な場合)	23
ステップ: Marketing Operations の手動での登録 (必	
要な場合)	25

ステップ:環境変数の設定 (WebLogic/Windows のみ) 26

第5章 IBM Marketing Operationsの	
配置2	7
WebSphere での Marketing Operations の配置に関す	
るガイドライン	7
WebLogic での Marketing Operations の配置に関する	
ガイドライン	0

第6章 配置後の IBM Marketing

Operations の構成	33
ステップ:インストールの確認	33
ステップ: asm_admin ユーザーに Marketing	
Operations へのアクセス権限を付与する	34
ステップ: マークアップ・オプションの構成 (必要な	
場合)	34
ステップ: E メール設定の構成	35
ステップ: Campaign との統合の構成 (必要な場合)	36
ステップ: 統合システム用の DB2 データベース	
の構成.................	36

第8章 クラスターでの IBM Marketing

Operations のインストール	41
WebLogic のクラスターでのインストール	41
WebSphere におけるクラスターへのインストール	44
共有フォルダー・プロパティーの構成	46
ehcache の構成	47

第9章 IBM Marketing Operations の

アップグレード51
すべての IBM EMM 製品のアップグレード前提条件 51
エラーと警告メッセージのある場所 52
既存のキャンペーン・プロジェクトまたは要求での
アップグレードについて 52
Marketing Operations アップグレード・シナリオ 53
Marketing Operations をアップグレードするには 53
ステップ: アップグレードの開始前にシステムを
バックアップする 53
ステップ: Marketing Platform がアップグレードさ
れたことを確認する 53
ステップ: インストーラーを実行して構成プロパ
ティーを更新する 54
ステップ: 手動によるデータベースのアップグレ
ード (必要な場合) 54
ステップ: アップグレードされた Web アプリケ
ーションを配置してアップグレード・プロセスを
実行する

手順: アップグレードの検証
グレード
付録 A. IBM 製品のアンインストール59 IBM 製品をアンインストールするには59
付録 B. configTool ユーティリティー 61
付録 C. IBM Marketing Operations 構
成フロパティー 67
Marketing Operations
Marketing Operations navigation
Marketing Operations バージョン情報 69
Marketing Operations umoConfiguration 70
Marketing Operations umoConfiguration Approvals 76
Marketing Operations umoConfiguration templates 76
Marketing Operations umoConfiguration
attachmentFolders
Marketing Operations umoConfiguration Email 80
Marketing Operations umoConfiguration markup 81
Marketing Operations umoConfiguration grid 82
Marketing Operations umoConfiguration workflow 84
Marketing Operations umoConfiguration
integrationServices
Marketing Operations umoConfiguration
campaignIntegration
Marketing Operations umoConfiguration reports 87
Marketing Operations umoConfiguration
invoiceRollup
Marketing Operations umoConfiguration database . 88
Marketing Operations umoConfiguration listingPages 92

Marketing Operations umoConfiguration
objectCodeLocking
Marketing Operations umoConfiguration
thumbnailGeneration
Marketing Operations umoConfiguration Scheduler
intraDay
Marketing Operations umoConfiguration Scheduler
daily
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications Email
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications project
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications projectRequest
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications program
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications marketingObject
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications approval
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications asset
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications invoice
IBM 技術サポートへの連絡 107
바리ㅋㅋㅋ
行記争項
商標

第 1 章 IBM インストールの準備

インストールのプロセスには複数のソフトウェア要素およびハードウェア要素が関係しており、IBM®が提供しないものも含まれています。 IBM 文書には、 IBM EMM 製品のインストール、構成およびアップグレードに関する指示が記載されています。 IBM が提供しないシステムを使用する際の情報については、各製品の資料を参照してください。

IBM EMM ソフトウェアのインストールを開始する前に、インストールの計画を立 ててください。これには、ビジネス目標や、それをサポートするために必要なハー ドウェアおよびソフトウェア環境が含まれます。

Marketing Operations および Marketing Platform のインストール先

以下の図は、Marketing Operations をインストールする場所についての概要を簡潔に 示しています。これは、最も基本的な機能インストールです。セキュリティー上お よびパフォーマンス上の要件を満たすため、より複雑な、まったく異なるインスト ールが必要になることがあります。



Marketing Operations: 最大限のパフォーマンスを実現するため、Marketing Operations は、専用のマシン (他の IBM EMM 製品がインストールされていないマシン)、または Marketing Platform とのみ共有するマシンにインストールしてください。

Marketing Operations システム・テーブルは別のマシンに置く必要があります。

Marketing Operations レポート・パッケージ: Marketing Operations のレポート・パッケージには IBM Cognos[®] パッケージのみが含まれています (他のアプリケーションには構成すべきレポート・スキーマもありますが、Marketing Operations にはありません)。レポート・パッケージは IBM Cognos システムにインストールしてください。

Marketing Platform: Marketing Platform アプリケーションには、IBM 共通のナビゲ ーション機能、レポート機能、ユーザー管理機能、セキュリティー機能、スケジュ ーリング機能、および構成管理機能が含まれています。IBM EMM 環境ごとに、 Marketing Platform を 1 回インストールして配置する必要があります。

前提条件

以下は、IBM EMM 製品のインストールのための前提条件です。

システム要件

システム要件について詳しくは、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

JVM 要件

スイート内の IBM EMM アプリケーションは、専用の Java[™] 仮想マシン (JVM) に配置しなければなりません。IBM EMM 製品は、Web アプリケーション・サーバ ーによって使用される JVM をカスタマイズします。JVM に関係するエラーが発生 する場合、 IBM EMM 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere[®] ドメイン を作成する必要が生じる場合があります。

ネットワーク・ドメイン要件

 コのスイートとしてインストールされる複数の IBM EMM 製品は、同じネットワ ーク・ドメイン上にインストールする必要があります。こうして、クロスサイト・ スクリプティングのセキュリティー・リスクを抑えることを意図したブラウザー制 限に従うようにします。

Marketing Platform の要件

IBM EMM 製品をインストールする前に、Marketing Platform がインストールされ ている必要があります。

連動する製品のグループごとに、Marketing Platform を一度だけインストールする必要があります。

重要: 各製品インストーラーは、必要な製品がインストールされているかどうかを 検査します。使用する製品またはバージョンが Marketing Platform に登録されてい ない場合、インストールを続行するにはその前にアップグレードまたはインストー ルを行う必要があることを示す通知がユーザーに送られ、インストーラーは終了し ます。以前のバージョンの製品が見つかった場合、または製品が見つからなかった 場合にのみ、メッセージが表示されます。

「設定」>「構成」ページにいずれかのプロパティーを設定するには、その前に、 Marketing Platform がデプロイされ、稼働していなければなりません。

知識要件

IBM EMM 製品をインストールするには、製品がインストールされる環境に関する 十分な知識を持っているか、あるいはその知識を持っている人とともに作業を行う 必要があります。これには、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

クライアント・マシン

- クライアント・マシンは、以下の構成要件を満たしている必要があります。
- ブラウザーでページをキャッシュしない。 Internet Explorer で、「ツール」>「インターネットオプション」>「設定」の順に選択し、アクセスするたびにブラウザーがページの新しいバージョンの有無を確認するオプションを選択します。
- ポップアップ・ブロッカー (広告ブロッカー) ソフトウェアがクライアント・マシンにインストールされていると、Marketing Operations が適切に機能しないことがあります。Marketing Operations の実行時にはポップアップ・ブロッカー・ソフトウェアを使用不可にすることをお勧めします。

アクセス権限

与えられているネットワーク権限でこのガイドの手順を実行できること、および、 以下を含め、該当するすべてのログイン情報にアクセスできることを確認してくだ さい。

- Web アプリケーション・サーバーの管理パスワード。
- 必要なすべてのデータベースに対する管理権限。
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限。
- インストール・ディレクトリーやバックアップ・ディレクトリー (アップグレー ドを行う場合)など、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに 対する書き込み権限。
- インストーラーを実行するための適切な読み取り/書き込み/実行権限。
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM EMM コンポーネントを実行する ために使用するオペレーティング・システム・アカウントには、関連するディレ クトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込み権限が必要 です。
- UNIX の場合、IBM 製品のインストールを実行するユーザー・アカウントは、配置先の Web アプリケーション・サーバーのインストール時に使用されたユーザー・アカウントと同じグループのメンバーでなければなりません。なぜならば、Web アプリケーション・サーバーは製品のファイル・システムにアクセスする必要があるためです。

UNIX の場合、IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルには全実行権限が 必要です (例えば、rwxr-xr-x)。

詳細情報の参照先

このガイドに記載された指示は、IBM Marketing Operations の基本インストールを 正常に行うことができるように設計されています。基本インストールは必要な手順 ですが、インストール処理はそこで終わりません。通常、IBM EMM 製品では、ビ ジネス目標を達成するための使用に備えて、追加の構成手順が必要になります。

基本インストールには以下が含まれます。

• 製品のすべてのコンポーネントのインストール。

• Marketing Operations システム・テーブルに対して管理者レベルのアクセス権限を 持つシステム・ユーザーの構成。

次の表に示されているように、追加の構成オプションに関する情報を見つけること ができます。

表1. 拡張構成に関して利用できる参照先

トピック	ガイド
レポート・スキーマのカスタマイズ	IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド
複数ロケールのサポート	IBM Marketing Operations 管理者ガイド
LDAP サーバーとの統合	IBM Marketing Platform 管理者ガイド
Web アクセス制御プラットフォームと の統合	IBM Marketing Platform 管理者ガイド
SSL の実装	IBM Marketing Platform 管理者ガイド

アップグレードの場合

インストールを実行する前に、必ず、インストール・プロセス全体についての説明 に目を通し、内容を把握してください。また、アップグレードする場合には、各 IBM EMM 製品について、アップグレードの準備に関するセクションおよびアップ グレードに関するセクションに目を通し、内容を把握してください。

第2章 IBM Marketing Operations データ・ソースの準備

IBM Marketing Operations をインストールできるようにするには、Marketing Operations システム・テーブルのデータベースおよび JDBC 接続をセットアップす る必要があります。

この章の終わりにある 9ページの『Marketing Operations データ・ソース情報のチ ェックリスト』を印刷してください。そして、この章に記載されているそれぞれの 作業が完了するたびに、チェックリストに情報を記入してください。この情報を書 き留めておくと、後でインストール・プロセスで IBM インストーラーを実行する ときにデータベース接続情報を簡単に入力できるようになります。

ステップ: Marketing Operations データベースのセットアップ

- 1. データベース管理者と共に作業して、Marketing Operations に必要なデータベー スを作成します。
- 2. 後のインストール処理で自身がシステム・ユーザーに指定するアカウントを、デ ータベース管理者に作成してもらいます。

このアカウントは、テーブルとビューの両方に対する CREATE、SELECT、INSERT、UPDATE、DELETE、および DROP の各権限を 必要に応じて持っていなければなりません。さらに、以下も必要です。

- データベースでは UTF-8 エンコード方式を使用する必要があります。
- SQL サーバーを使用している場合は、TCP/IP が有効になっていることを確認 してください。
- DB2[®] を使用している場合は、テーブル・スペースのバッファー・プールが少 なくとも 32K あることを確認してください。
- 3. 9ページの『Marketing Operations データ・ソース情報のチェックリスト』を印 刷し、必要事項を記入します。この情報は、後にインストール処理で使用しま す。

ステップ: JDBC ドライバーの Web アプリケーション・サーバーを構成す る

以下の手順によって、Marketing Operations インストール環境のための正しい JDBC ドライバーを入手し、それを使用できるように Web アプリケーション・サーバー を構成します。

注: Marketing Platform がインストールされている同じマシンに Marketing Operations をインストールする場合、このタスクは既に完了しています。6ページの『ステップ: JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する』に進みます。

 使用する予定であるデータベースの最新のタイプ 4 JDBC ドライバー、および 必要な関連ファイル (例えば、Oracle ではいくつかの関連ファイルが必要とな る) を入手します。 常に、ベンダーが提供する最新のタイプ 4 ドライバーを使用してください。

- Marketing Operations のインストール先のマシンにドライバーが存在しない場合は、ドライバーを入手し、それを Marketing Operations マシンの任意の場所にコピーします。
- データベース・クライアントがインストールされているマシンからドライバー を入手する場合は、そのバージョンがデータベース・ベンダーによって提供さ れた最新のものであることを確認してください。サポートされる JDBC ドラ イバーのリストについては、IBM コンサルタントに確認してください。

以下のリストは、IBM EMM システム・テーブル用にサポートされるデータベー ス・タイプに対応したドライバー・ファイルの名前を示します。

表2. サポートされるデータベース・タイプとドライバー

データベー		
ス・タイプ	JRE 1.5 用ファイル	JRE 1.6 用ファイル
Oracle 11	ojdbc5.jar	該当なし
Oracle 11g	ojdbc5.jar	ojdbc6.jar
DB2 9.7	db2jcc.jar	db2jcc.jar
	db2jcc_license_cu.jar	db2jcc_license_cu.jar
SQL Server	sqljdbc.jar (JDBC2 使用)	sqljdbc4.jar (JDBC3 使用)

- 2. 以下のように、Marketing Operations を配置する予定の Web アプリケーショ ン・サーバーの CLASSPATH に、ドライバーへの絶対パスを組み込みます。
 - サポートされるすべてのバージョンの WebLogic で、 DOMAIN_DIR¥bin¥setDomainEnv.cmd の CLASSPATH 変数に jar ファイルを追加 します。 Web アプリケーション・サーバーが正しいドライバーを使用するようにするためには、ご使用のドライバーが CLASSPATH 値の最初のエントリー でなければなりません。例えば、SQL Server を使用する場合は、パスを以下 のように設定します。

set CLASSPATH=c:¥SQLDRIVER¥sq1jdbc.jar;%PRE_CLASSPATH%;
%WEBLOGIC_CLASSPATH%; %POST_CLASSPATH%;%WLP_POST_CLASSPATH%;

・ サポートされるすべてのバージョンの WebSphere について、管理コンソール で CLASSPATH を設定します。

ステップ: JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する

Marketing Operations Web アプリケーションは、Marketing Platform システム・テー ブルおよび Marketing Operations システム・テーブルの両方と通信できなければな りません。Marketing Operations を配置する予定の Web アプリケーション・サーバ ーでこれらの JDBC 接続を作成します。

重要: Marketing Operations システム・テーブルを保管するデータベースへの接続 に対しては、JNDI 名として plands を使用する必要があります。この値は、必須の JNDI 名です。

重要: Marketing Platform システム・テーブルを保管するデータベースへの接続に対しては、JNDI 名として UnicaPlatformDS を使用する必要があります。これは、必

須の JNDI 名です。Marketing Operations と Marketing Platform を同じ JVM に配置する場合は、この接続が既に存在している必要があります。

Marketing Operations で多数の同時ユーザーが予想される場合は、Web サーバーの 接続数を増やさなければならない可能性があります。最良の結果を得るためには、 50 個の接続を許可するように Web サーバーを設定します。

JDBC 接続を作成するための情報

JDBC 接続を作成するとき、このセクションを参照すると、入力の必要ないくつかの値を決めるために役立ちます。

注: データベースのデフォルト・ポート設定を使用しない場合、正しい値に変更してください。

ここに示す情報は、Web アプリケーション・サーバーで必要なすべての情報を反映 してはいません。このセクションで明示的な指示が与えられていない場合には、デ フォルト値を受け入れることができます。より広範囲なヘルプが必要な場合には、 アプリケーション・サーバーの文書を参照してください。

WebLogic

アプリケーション・サーバーが WebLogic である場合に、以下の値を使用します。

SQLServer

- データベース・ドライバー: Microsoft MS SQL Server ドライバー (タイプ 4) バ ージョン: 2008、2008R2
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
- ドライバー URL: jdbc:sqlserver://
 <your_db_host>:<your_db_port>;databaseName=<your_db_name>
- プロパティー: user=<your_db_user_name> を追加

Oracle 11 および 11g

- ドライバー: その他
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL: jdbc:oracle:thin:@<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>

上記の形式でドライバー URL を入力してください。 IBM EMM アプリケーションでは、JDBC 接続に対する Oracle の RAC (Real Application Cluster) 形式の 使用は許可されていません。

• プロパティー: user=<your_db_user_name> を追加

DB2

- ドライバー: その他
- デフォルト・ポート: 50000

- ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ドライバー URL: jdbc:db2://<your_db_host>:<your_db_port>/<your_db_name>
- プロパティー: user=<your_db_user_name> を追加

WebSphere

アプリケーション・サーバーが WebSphere である場合に、以下の値を使用します。

SQLServer

- ドライバー: 該当なし
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource
- ドライバー URL: 該当なし

「データベース・タイプ」フィールドで、「ユーザー定義 (User-defined)」を選択します。

JDBC プロバイダーおよびデータ・ソースを作成した後に、データ・ソースのカス タム・プロパティーに移動して、プロパティーを次のように追加および変更しま す。

- serverName=<your_SQL_server_name>
- portNumber =<SQL_Server_Port_Number>
- databaseName=<your_database_name>
- enable2Phase = false

Oracle 11 および 11g

- ドライバー: Oracle JDBC ドライバー
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL: jdbc:oracle:thin:@<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>

上記の形式でドライバー URL を入力してください。 IBM EMM アプリケーションでは、JDBC 接続に対する Oracle の RAC (Real Application Cluster) 形式の 使用は許可されていません。

DB2

- ドライバー: DB2 Universal JDBC ドライバー・プロバイダー
- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ドライバー URL: jdbc:db2://<your_db_host>:<your_db_port>/<your_db_name>

以下のカスタム・プロパティーを追加します。

名前: webSphereDefaultIsolationLevel

値: 2

データ型: 整数

Marketing Operations データ・ソース情報のチェックリスト

表 3. データ・ソース情報のチェックリスト

項目	值
データ・ソース・タイプ	
データ・ソース名	
データ・ソースのアカウント・ユーザー名	
データ・ソースのアカウント・パスワード	
JNDI 名	plands
JDBC ドライバーへのパス	

第3章 IBM Marketing Operations のインストール

データ・ソースを作成したら、IBM Marketing Operations のインストール準備は完 了です。インストーラーおよび必要な接続情報を入手してから、インストール・ウ ィザードを実行してください。Marketing Operations をクラスターにインストールす る場合は、EAR ファイルを作成することにより、この一連の作業を完了させます。

IBM EMM インストーラーの機能

IBM EMM インストーラーの基本機能を十分に理解していない場合は、このセクションをお読みください。

インストーラー・ファイルの単一ディレクトリー要件

IBM EMM エンタープライズ製品をインストールするとき、複数のインストーラー を組み合わせて使用します。

- マスター・インストーラー (ファイル名に IBM_EMM_Installer が含まれる)
- ・ 製品固有のインストーラー (すべてにファイル名の一部として製品名が含まれる)

IBM EMM 製品をインストールするには、マスター・インストーラーと製品インス トーラーとを同じディレクトリーに配置する必要があります。マスター・インスト ーラーを実行すると、ディレクトリー内の製品インストール・ファイルが検出され ます。その後、インストールする製品を選択できます。

ディレクトリー内にマスター・インストーラーと共に複数のバージョンの製品イン ストーラーがある場合、マスター・インストーラーは常に製品の最新バージョン を、インストール・ウィザードの IBM EMM 製品画面に表示します。

パッチのインストール

IBM EMM 製品の新規インストールを実行した直後に、パッチのインストールも計 画している場合があります。その場合、基本バージョンおよびマスター・インスト ーラーのあるディレクトリーにパッチ・インストーラーを置きます。インストーラ ーを実行するときに、基本バージョンとパッチの両方を選択できます。すると、イ ンストーラーはそれら両方を正しい順序でインストールします。

製品インストール・ディレクトリーの選択

ネットワークにアクセス可能な任意のシステムの、任意のディレクトリーにインス トールできます。パスを入力するか、パスを参照して選択することにより、インス トール・ディレクトリーを指定できます。

パスの前にピリオドを 1 つ入力することにより、インストーラーを実行するディレ クトリーとの相対位置でパスを指定できます。

指定したディレクトリーが存在しない場合、ログインに適切な権限があれば、イン ストーラーがそのディレクトリーを作成します。 IBM EMM インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは、 /IBM/EMM (UNIX) または C:¥IBM¥EMM (Windows) です。その後、製品インストーラーは EMM ディレクトリーの下の個々のサブディレクトリーに製品ファイルをインストールし ます。

インストール・タイプ

IBM EMM インストーラーは、以下のタイプのインストールを実行します。

- 新規インストール: インストーラーを実行して、IBM EMM 製品がまだインストールされたことのないディレクトリーを選択すると、インストーラーは自動的に 新規インストールを実行します。
- アップグレード・インストール: インストーラーを実行して、以前の バージョンの IBM EMM 製品がインストールされているディレクトリーを選択すると、インストーラーは自動的にアップグレード・インストールを実行します。インストーラーによってデータベースが自動的に更新される製品の場合、アップグレード・インストールによって新しいテーブルが追加されますが、既存のテーブル内のデータは上書きされません。

インストーラーによってデータベースが自動的に更新される製品の場合、インス トーラーによるデータベース内のテーブルの作成は、それらのテーブルが存在し ているときには実行されないため、アップグレードの際にエラーが生じることが あります。これらのエラーは、無視しても安全です。詳しくは、アップグレード に関する章を参照してください。

 ・ 再インストール: インストーラーを実行して、同じ バージョンの IBM EMM 製 品がインストールされているディレクトリーを選択すると、インストーラーは既 存のインストール済み環境を上書きします。既存データを保持するには、再イン ストールの前に、インストール・ディレクトリーおよびシステム・テーブル・デ ータベースをバックアップしてください。

通常、再インストールは推奨されません。

インストール・モード

IBM EMM インストーラーは、以下のモードで実行できます。

コンソール (コマンド・ライン) モード

コンソール・モードでは、オプションは番号付きリストで表示されます。必要な オプションを選択するには、番号を入力します。番号を入力しないで Enter キー を押すと、インストーラーはデフォルト・オプションを使用します。デフォル ト・オプションは、以下のいずれかの記号によって表されます。

--> この記号が表示されている場合にオプションを選択するには、対象のオプションの番号を入力してから Enter を押します。

[X] この記号は、リスト内の 1 つ、複数、または全部のオプションを選択できる ことを示します。[X] 記号が横にあるオプションの番号を入力して Enter キーを 押すと、そのオプションがクリアつまり選択解除されます。現在選択されていな い (その横に [] がある) オプションの番号を入力して Enter キーを押すと、そ のオプションが選択されます。 複数のオプションを選択解除または選択するには、番号をコンマ区切りリストの 形式で入力します。

コンソール・モードの最中に表示されるプロンプトの例は、19ページの『インス トール・プロンプトの例』を参照してください。この例を使用すると、インスト ールを開始する前に必要な情報を収集するために役立ちます。

- ・ Windows GUI または UNIX X Window モード
- ユーザーとの対話が不要な、無人つまりサイレント・モード

無人モードは、クラスター環境をセットアップするときなど、IBM EMM 製品を 複数回インストールするために使用できます。詳しくは、『無人モードを使用し て複数回インストールする』を参照してください。

無人モードを使用して複数回インストールする

クラスター環境をセットアップするときなど、IBM EMM 製品を複数回インストー ルする必要がある場合は、ユーザー入力が不要な無人モードで IBM EMM インスト ーラーを実行できます。

応答ファイルについて

無人モード (サイレント・モードとも呼ばれる) では、コンソールまたは GUI モードを使用するときにユーザーがインストール・プロンプトに入力するものと同じ情報を提供する、ファイルまたはファイルのセットが必要となります。これらのファイルは応答ファイルと呼ばれます。

次のいずれかのオプションを使用して、応答ファイルを作成できます。

- サンプルの応答ファイルをテンプレートとして使用して、応答ファイルを直接作成できます。サンプル・ファイルは製品インストーラーに含まれており、 ResponseFiles という圧縮アーカイブ内にあります。サンプル応答ファイルの名前は、次のとおりです。
 - IBM EMM マスター・インストーラー installer.properties
 - 製品インストーラー installer_の後に製品名のイニシャルとバージョンの 番号が付きます。例えば、Campaign インストーラーには、 installer_ucN.N.N.properties という名前の応答ファイルが含まれていま す。
 - 製品レポート・パック・インストーラー installer_ の後にレポート・パッ クのイニシャル、製品名、およびバージョンの番号が付きます。例えば、 Campaign レポート・パック・インストーラーには、 installer_urpcN.N.N.properties という名前の応答ファイルが含まれてい ます。

必要に応じてサンプル・ファイルを編集し、それらをインストーラーと同じディ レクトリーに配置します。

 また、無人モードでの実行をセットアップする前に、Windows GUI または UNIX X-windows モード、またはコンソール・モードでインストーラーを実行して、応 答ファイルを作成することを選択できます。 IBM EMM マスター・インストーラーは 1 つのファイルを作成し、インストー ルする各 IBM EMM 製品も 1 つ以上のファイルを作成します。

インストーラーを実行するときに作成される応答ファイルには .properties という拡張子が付いており (例えば、installer_productversion.properties)、 IBM EMM インストーラー自体のファイルには installer.properties という名前が 付いています。インストーラーは、指定されたディレクトリーにこれらのファイ ルを作成します。

重要: セキュリティー上の理由で、インストーラーはデータベース・パスワード を応答ファイルに記録しません。無人モード用の応答ファイルを作成するとき は、各応答ファイルを編集してデータベース・パスワードを入力する必要があり ます。各応答ファイルを開いて、PASSWORD を検索し、それらの編集を行う必 要のある個所を見つけてください。

インストーラーが応答ファイルを検索する場所

インストーラーを無人モードで実行すると、以下の方法で応答ファイルが検索され ます。

- 最初に、インストーラーはインストール・ディレクトリーを検索します。
- 次に、インストーラーはインストールを実行しているユーザーのホーム・ディレクトリーを検索します。

すべての応答ファイルは同じディレクトリーにある必要があります。コマンド・ラ インに引数を追加することによって、応答ファイルを読み取るためのパスを変更で きます。以下に例を示します。

-DUNICA_REPLAY_READ_DIR="myDirPath" -f myDirPath/installer.properties

アンインストールする際の無人モードによる影響

無人モードを使ってインストールされた製品をアンインストールする際、アンイン ストールは無人モードで実行されます (ユーザー対話のためのダイアログは表示さ れません)。

無人モードとアップグレード

アップグレードするとき、応答ファイルが以前に作成されていて無人モードで実行 する場合は、インストーラーは以前に設定されたインストール・ディレクトリーを 使用します。応答ファイルが存在しないときに無人モードを使用してアップグレー ドする場合は、最初のインストールのためにインストーラーを手動で実行すること によって応答ファイルを作成するとともに、インストール・ウィザードで必ず現在 のインストール・ディレクトリーを選択してください。

クラスター配置用 EAR ファイルの作成

IBM は、クラスタリングをサポートしています。サポートされる Web アプリケー ション・サーバーでは、1 つの管理コンソールから配置を実行し、配置を管理する ことができます。これらの機能を使用するには、エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルを配置に使用する必要があります。 マスター・インストーラーでは、指定したインストール済み製品を含む EAR ファ イルを 1 つ以上作成できます。その後、製品を含む EAR ファイル (1 つまたは複 数) を配置します。

あるドメインに複数の EAR ファイルを配置する場合、EAR ファイルに付ける名前 はそのドメイン内で固有でなければなりません。

IBM インストーラーを使用すると、初期インストール後いつでも、インストールされた製品の EAR ファイルを作成できます。18ページの『インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成する方法』を参照してください。

IBM サイト ID

インストーラーは、IBM サイト ID の入力を求めるプロンプトを出すことがありま す。 IBM サイト ID は、IBM Welcome レター、Tech Support Welcome レター、 Proof of Entitlement (ライセンス証書) レター、またはソフトウェアの購入時に送ら れる通信物に記載されています。

IBM は、お客様が弊社の製品をどのようにご利用になっているかをより良く理解 し、カスタマー・サポートを改善するために、ソフトウェアによって提供されるデ ータを使用する場合があります。収集されるデータには、個人を識別する情報は含 まれていません。

こうした情報が収集されることを望まない場合には、Marketing Platform をインスト ールした後に、Marketing Platform に管理者権限のあるユーザーとしてログオンしま す。「設定」>「構成」ページに移動して、「プラットフォーム」カテゴリーの下の 「ページのタグ付けを無効にする (Disable Page Tagging)」プロパティーを True に設定します。

ステップ: インストール・アーカイブの入手

IBM EMM 製品のインストール・ファイルは、製品のバージョンと、使用が想定されているオペレーティング・システムとに基づいて名前が付けられています。ただし、オペレーティング・システムに固有ではない、コンソール・モードで実行される UNIX ファイルの場合は例外です。UNIX では、インストール・モードが X Window またはコンソールのどちらであるかに応じて異なるファイルが使用されます。以下に例を示します。

UNIX X Window モード の場合: *ProductN.N.N.*solaris64.bin は、バージョン が *N.N.N.N* で、Solaris 64 ビット・オペレーティング・システムにインストールす るためのものです。

UNIX コンソール・モードの場合: *ProductN.N.N.*sh は、バージョンが *N.N.N.N* で、すべての UNIX オペレーティング・システムにインストールできます。

ステップ:必要な情報の取得

インストーラーでは、Marketing Platform システム・テーブル・データベースおよび Marketing Operations 配置に関するいくつかの情報を入力するように求めるプロンプ トが出されます。それらの情報は、インストールを開始する前に収集しておいてく ださい。

データベース接続情報

インストール・ウィザードは、メニュー項目、セキュリティー情報、および構成プロパティーを登録するために、Marketing Platform システム・テーブル・データベースと通信可能でなければなりません。新しい場所でインストーラーを実行するたびに、Marketing Platform システム・テーブル・データベースのための以下のデータベース接続情報を入力する必要があります。

- データベース・タイプ。
- データベース・ホスト名。
- データベース・ポート。
- データベース名またはスキーマ ID。
- データベース・アカウントのユーザー名およびパスワード。

この情報は、データベースまたはスキーマを作成して Marketing Platform のデータ ベース情報チェックリストに記入したときに取得したものです。

インストーラーでは、インストール中に Marketing Operations システム・テーブル を作成できます。この機能を使用することが自社の方針で許可されている場合は、 インストーラーによって自動的にデータベースが構成されるようにするため、

Marketing Operations システム・テーブル・データベースに関する以下の接続情報 を指定する必要があります。

- データベース・タイプ。
- データベース・ホスト名。
- データベース・ポート。
- データベース名またはスキーマ ID。
- データベース・アカウントのユーザー名およびパスワード。

この情報は、データベースまたはスキーマを作成して Marketing Operations のデー タベース情報チェックリストに記入したときに取得したものです。

Marketing Operations 配置情報

予定している Marketing Operations 配置

に関する以下の情報を取得してください。

- プロトコル: HTTP または HTTPS (SSL が Web アプリケーション・サーバーに 実装されている場合)。
- ホスト: Marketing Operations を配置するマシンの名前。
- ポート: Web アプリケーション・サーバーが listen するポート。
- ドメイン・ネーム: IBM 製品をインストールする各マシンの企業ドメイン。例えば、mycompany.com。すべての IBM 製品を同じ企業ドメインにインストールし、ドメイン・ネームをすべて小文字で入力する必要があります。ドメイン・ネームの入力に不一致がある場合、Marketing Operations の機能を使用しようとしたり、製品間を移動しようとしたりすると、問題が発生することがあります。ドメイン・ネームは、ログインして「設定」>「構成」ページの製品ナビゲーション・カテゴリーで該当の構成プロパティーの値を変更することによって製品を配置した後、変更することができます。

JAVA_HOME 環境変数の確認

IBM EMM 製品をインストールするマシン上で JAVA_HOME 環境変数を定義した場合 は、その変数で Sun JRE バージョン 1.6 がポイントされていることを確認してく ださい。

この環境変数は、IBM EMM 製品をインストールするために必要なものではありま せんが、存在する場合は、Sun JRE バージョン 1.6 をポイントしていなければなり ません。

JAVA_HOME 環境変数が存在し、間違った JRE をポイントしている場合、IBM EMM インストーラーを実行する前に、JAVA_HOME 変数を設定解除する必要があります。 これは、以下の手順で行うことができます。

• Windows の場合: コマンド・ウィンドウで、次のように入力します。

set JAVA HOME=leave empty and press return key

• UNIX タイプ・システム:端末で次のコマンドを入力します。

export JAVA_HOME=leave empty and press return key

環境変数を設定解除すると、IBM EMM インストーラーは、インストーラーに組み 込まれている JRE を使用します。

インストールが完了した後で、環境変数をリセットすることができます。

ステップ: IBM インストーラーを実行する

IBM インストーラーを実行する前に、以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

- IBM インストーラーとインストール予定の製品をダウンロードし、IBM インス トーラーと製品インストーラーの両方を同じディレクトリーに置いた。
- 15ページの『ステップ:必要な情報の取得』に記載されている情報を収集して使用できる状態にしてある。必要な情報を収集するには、19ページの『インストール・プロンプトの例』を参照してください。

ここで説明されている方法で IBM インストーラーを実行し、指示に従って、プロ ンプトに対する指定を完了させます。

- インストール時に指定する情報の詳細については、このセクション内の他のトピックを参照してください。
- インストール時の情報の入力に関するヘルプが必要であれば、UNIX サーバーで コンソール・モードを使用する場合のインストール・プロンプトの例が注釈付き で以降に記載されているので参照してください。

注: 製品インストーラーを直接実行しないでください。IBM は、そのような方法に よるインストールをサポートしていません。

・ コンソール・モード

コマンド・プロンプトを開き、IBM ソフトウェアをダウンロードしたディレクト リーから、以下のようにして IBM_EMM_Installer 実行可能ファイルを実行しま す。

 Windows では、IBM_EMM_Installer 実行可能ファイルに -i console を指定し て実行します。以下に例を示します。

IBM_EMM_Installer_N.N.N.N_OS -i console

- UNIX では、IBM_EMM_Installer_N.N.N.sh ファイルをスイッチなしで実行 します。
- ・ Windows GUI または UNIX X Window モード

IBM_EMM_Installer ファイルを実行します。 UNIX では、.bin ファイルを使用 します。

・ 無人モード

コマンド・プロンプトを開き、IBM ソフトウェアをダウンロードしたディレクト リーから、IBM_EMM_Installer 実行可能ファイルに -i silent を指定して実行し ます。 UNIX では、.bin ファイルを使用します。

インストーラーと同じディレクトリーにある応答ファイルを指定するには、以下のようにします。以下に例を示します。

IBM_EMM_Installer_N.N.N.N_OS -i silent

 異なるディレクトリーにある応答ファイルを指定するには、 -f filepath/filename を使用します。絶対パスを使用してください。以下に例を 示します。

IBM_EMM_Installer_N.N.N.OS -i silent -f filepath/filename

無人モードについて詳しくは、13ページの『無人モードを使用して複数回インス トールする』を参照してください。

インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成する方法

EAR ファイル (通常、クラスター・インストールで使用) を作成するには、インス トーラーをコマンド・ラインからコンソール・モードで実行します。Marketing Operations クラスター・インストールの場合、通常は、unica.war および plan.war を含む EAR を作成します。その後、その EAR をクラスター内の各サーバーに展 開します。

- 1. すべての WAR ファイルを単一のディレクトリーに入れます。
- 2. インストールする製品ごとに、インストーラーの .properties ファイルのバッ クアップ・コピーを作成します。

IBM 製品インストーラーと同じディレクトリーで、.properties ファイルを見 つけます。これらのファイルの名前は installer_*sproduct*>.properties となり ますが、IBM インストーラー自体のファイルは例外で、その名前は installer.properties となります。

このバックアップ・ステップは、インストーラーを無人モードで実行し、インストールで複数の EAR が必要となる場合に、特に重要です。インストーラーを無

人モードで実行すると、それらのファイルがクリアされます。EAR ファイルを 作成するには、インストーラーが初期インストールの際に .properties ファイ ルに書き込むための情報が必要です。

- コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーをインストーラーが含まれるディレクトリーに変更します。
- 4. インストーラーの実行可能ファイルに次のオプションを指定して実行します。

-DUNICA_GOTO_CREATEEARFILE=TRUE

UNIX タイプのシステムでは、.sh ファイルではなく .bin ファイルを実行します。

インストーラー・ウィザードが実行されます。

- 5. ウィザードの指示に従ってください。
- さらに EAR ファイルを作成する必要がある場合は、初めてインストーラーをコンソール・モードで実行する前に作成したバックアップ・ファイルで
 .properties ファイル (複数の場合もある)を上書きします。

インストール・プロンプトの例

参考のため、UNIX サーバーでコンソール・モードを使用してインストールすると きに表示されるプロンプトの例を以下に示します。必ず、実際のインストール時に 表示される指示に目を通してそれらに従ってください。

情報を入力すると、ほとんどのプロンプトでは、入力内容が表示され、続行する前 に確認のため「はい」または「いいえ」(Y/N)を指定するように求められます。そ れらのプロンプトを表示することにより、必要に応じて訂正する機会を入力者に提 供しています。

この例は、インストールを開始する前に必要な情報を収集するのに役立ててください。

表4. インストール時のプロンプトと応答の例

プロンプト	応答
-bash-4.0S	初期プロンプト。マスター・インストーラー・ファイル の名前と、インストールに使用する、データベース・セ ットアップ・ユーティリティー用の変数を指定してくだ さい。
ロケールを選択	番号を指定して、リストされる言語の 1 つを選択しま す。デフォルト・ロケールを使用するには、2- English を選択し、Enter キーを押します。
概要	以前のバージョンの製品がインストールされている場合 は、アップグレードが実行されます。51ページの『第 9章 IBM Marketing Operations のアップグレード』を 参照してください。 同じバージョンの製品がインストールされている場合 は、続行すると、すべてのテーブルおよびデータが除去 されます。

表4. インストール時のプロンプトと応答の例 (続き)

プロンプト	応答
応答ファイルの生成	番号を指定して、無人インストールで使用する応答ファ
	イルを生成するかどうかを選択します。応答ファイルを
	生成する場合は、宛先パスを指定できます。
製品機能の選択	フィーチャーの番号付きリストが表示されます。チェッ
	ク・マーク付き ([X]) のフィーチャーはインストール
	するものとして選択され、チェック・マークなし([])
	のノイーナヤーは選択されません。選択内容を変更する
	溶みから選択解除 (または、その逆) に切り替え、Enter
	キーを押します。
	例えば、以下のようなフィーチャーのリストが表示され
	ます。
	1- [X] IBM Marketing Platform 2- [X] IBM Marketing Operations
	Marketing Platform のみ をインストールするには、2
	と入力してから Enter キーを押します。
マスター (Marketing Platform) イン	ンストール
インストール・ディレクトリー	
アプリケーション・サーバーの選 択	
Platform データベースのタイプ	Marketing Platform システム・テーブル・データベース に関する情報を指定してください。
Platform データベースのホスト名	
Platform データベースのポート	
Platform データベース名/システ	
ム ID (SID)	
Platform データベースのユーザー	
名	
Platform データベースのパスワー	
۲́	
JDBC 接続	
JDBC ドライバー・クラスパス	
製品別 (Marketing Operations) イン	レストール
概要	インストールするものとして選択した各製品フィーチャ
	ーについて、個別の製品名の後に再インストールに関す
	る警告が表示されます。
インストール・ディレクトリー	

表 4.	インス	トール時の	プロンプト	・と応答の例	(続き)
------	-----	-------	-------	--------	------

プロンプト	応答
Marketing Operations データベー	番号を指定して自動または手動を選択します。
スのセットアップ	 自動セットアップでは、マスター・インストールでこの機能について指定したのと同じ情報が使用されます。
	 手動セットアップでは、フィーチャー別の違いに対応 するため、それぞれのデータベースおよび JDBC 特 性について別々にプロンプトが出されます。
Marketing Operations サーバー/ ホスト	
Marketing Operations サーバー・ ポート	
Marketing Operations ドメイン・ ネーム (Marketing Operations Domain Name)	インストールするすべてのフィーチャーについて、同じ 企業ドメインをすべて小文字で指定します。
サポートされているロケール	番号を指定して、言語を選択します。また、コンマ区切 りリストを指定して、複数のロケールを選択することも できます。
デフォルト・ロケール	番号を指定して、言語を選択します。
デプロイメント EAR ファイル	番号を指定して、エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルを作成するかどうかを選択します。

第4章 配置前の IBM Marketing Operations の構成

この章の各タスクを実行する必要があるかどうかは、インストール済み環境によっ て異なります。例えば、企業ポリシーにおいてインストーラーを使用したシステ ム・テーブルの自動構成が許可されている場合は、その構成を手動で行う必要はあ りません。

この章のタスクを確認して、IBM Marketing Operations Web アプリケーションを配置する前に、インストール済み環境に必要なすべてのタスクを完了してください。

ステップ: umodbsetup ユーティリティーを使用した、Marketing Operations システム・テーブルの作成およびデータの追加 (必要な場合)

IBM インストーラーでは、インストール中に Marketing Operations システム・テー ブルを作成できますが、そのような方法でデータベース表を作成することが自社の 方針で許可されていない場合は、データベース・セットアップ・ユーティリティー (umodbsetup) を手動で実行する必要があります。

umodbsetup ユーティリティーにより、以下のいずれかを実行します。

- オプション 1: Marketing Operations データベースで必要なシステム・テーブルを 作成し、必要なデフォルト・データをシステム・テーブルに追加します。
- オプション 2: データベースを作成してデータを追加するためのスクリプトをファイルに出力します (このファイルは、後で、ユーザーまたはデータベース管理 者がユーザーのデータベース・クライアントで実行できます)。

環境変数の構成

umodbsetup ユーティリティーを実行する前に、以下の手順を実行して、環境変数を 適切に構成します。

- <IBM_EMM_Home>¥<MarketingOperations_Home>¥tools¥bin ディレクトリーで、 setenv ファイルを見つけ、テキスト・エディターで開きます。
- JAVA_HOME 変数が正しい Java インストール・ディレクトリーを示しており、 DBDRIVER_CLASSPATH 変数の最初の項目が JDBC ドライバーであることを確 認します。この環境変数の設定について詳しくは、17ページの『JAVA_HOME 環境変数の確認』を参照してください。
- 3. ファイルを保存して閉じます。
- 4. <*IBM_EMM_Home*>¥<*MarketingOperations_Home*>¥tools¥bin ディレクトリーで、 umo_jdbc.properties ファイルを見つけて開きます。
- 5. 以下のパラメーターの値を設定します。(例についてはファイル内のコメントを 参照してください。)
 - umo_driver.classname
 - umo_data_source.url
 - umo_data_source.login

• umo_data_source.password

6. ファイルを保存して閉じます。

データベース・セットアップ・ユーティリティーの実行

コマンド・プロンプトまたは UNIX シェルで、

<*IBM_EMM_Home*>¥<*MarketingOperations_Home*>¥tools¥bin ディレクトリーに移動し ます。umodbsetup ユーティリティーを実行し、自身の状況に必要なパラメーターに 適切な入力データを指定してください。

例えば、次のコマンドは、(アップグレードではなく) フルデータベース・インスト ールを実行し、ロケールを en_US に設定して、ロギング・レベルを high に設定し ます。

./umodbsetup.sh -t full -L en_US -1 high

ユーティリティーについて指定できるすべての変数の説明は以下のとおりです。

変数	説明
-h	ユーティリティーのヘルプを表示します。
-1	umodbsetup ユーティリティーによって実行されるアクションから の出力を umo-tools.log ファイルに記録します。このファイルは <i><ibm_emm_home></ibm_emm_home></i> ¥ <i><marketingoperations_home></marketingoperations_home></i> ¥tools¥logs ディレ クトリーにあります。この変数はロギング・レベルを指定します。 ロギング・レベルは、high、medium、または low に設定できま す。
-L	インストールのデフォルト・ロケールを設定します。例えば、ドイ ツ語版のインストールでは -L de_DE を使用してください。 ロケールについて有効な入力値としては、 de_DE、en_GB、en_US、es_ES、fr_FR、it_IT、ja_JP、 ko_KR、 pt_BR、 ru_RU、 zh_CN があります。
-m	スクリプトを <ibm_emm_home>¥<marketingoperations_home>¥tools ディレクトリー内のファイルに出力します。このファイルは後で手 動で実行することができます。このオプションは、データベース・ クライアント・アプリケーションからスクリプトを実行する必要が ある場合に使用してください。この変数を使用すると、スクリプト が umodbsetup ツールによって実行されなくなります。</marketingoperations_home></ibm_emm_home>
-t	データベース・インストールのタイプ。有効な値は full と upgrade です。例えば、-t full とします。
-V	冗長。

表 5. umodbsetup.sh ユーティリティーの変数

表 5. umodbsetup.sh ユーティリティーの変数 (続き)

変数	説明
-b	アップグレードの場合のみ。アップグレードしようとしているデー タベースの基本バージョンを識別します。
	デフォルトで、ユーティリティーは、アップグレードしようとして いるデータベースのバージョンを検出します。ただし、以前にデー タベースをアップグレードしようとしたときに何らかの形で失敗し ていた場合、アップグレードが失敗してもバージョンが更新されて いることがあります。問題を修正して再びユーティリティーを実行 するときには、この変数を -f 変数と共に使用して、正しい基本バ ージョンを指定してください。
	例: -f -b 9.0.0.0
-f	アップグレードの場合のみ。データベースで検出される基本バージョンをオーバーライドして、-b 変数で指定された基本バージョン がユーティリティーで使用されるようにします。-b 変数の説明を 参照してください。

データベース・スクリプトの手動での実行 (必要な場合)

-m 変数を使用してスクリプトを出力し、データベース・クライアント・アプリケー ションから実行できるようにしてある場合は、ここで、そのスクリプトを実行して ください。

システム・テーブルを作成してデータを追加する前に plan.war ファイルを配置し ないでください。

ステップ: Marketing Operations の手動での登録 (必要な場合)

Marketing Operations インストーラーが Marketing Platform データベースに接続でき ないために製品を登録することができない場合、エラー・メッセージが表示され て、失敗が通知されます。インストール処理は続行されますが、その場合は手動で 製品情報を Marketing Platform システム・テーブルにインポートする必要がありま す。

この手順で言及される configTool ユーティリティーは、Marketing Platform インス トールの tools/bin ディレクトリーにあります。configTool ユーティリティーの 使用に関する詳しい説明については、61ページの『付録 B. configTool ユーティリ ティー』を参照してください。

- 1. NAVIGATION_DIR という名前の環境変数を Marketing Operations conf ディレクト リーに設定します。
- 2. 以下のコマンド例をガイドラインとして使用して、configTool ユーティリティ ーを実行します。

その結果、構成プロパティーおよびメニュー項目がインポートされます。ユーティリティーは、ファイルの数だけ実行します。

configTool.bat -v -i -p "Affinium" -f "%NAVIGATION_DIR
%¥plan registration.xml"

configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f
"%NAVIGATION_DIR%¥plan_navigation_operations.xml"

configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f
"%NAVIGATION_DIR%¥plan_navigation_financials.xml"

注: Marketing Operations に財務モジュールがインストールされている場合、このコマンドを実行します。

configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Analytics"
-f "%NAVIGATION_DIR%¥plan_navigation_analytics.xml"

configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu" -f
"%NAVIGATION DIR%¥plan navigation settings.xml"

configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|alerts" -f
"%NAVIGATION_DIR%¥plan_alerts_registration.xml"

ステップ:環境変数の設定 (WebLogic/Windows のみ)

Windows マシンにインストールされている WebLogic Web アプリケーション・サ ーバーに Marketing Operations を配置する予定の場合にのみ、このタスクを実行し ます。

WebLogic がインストールされているマシンで、Path システム環境変数の値に以下 を追加します。

- Sun JDK がインストールされている bin ディレクトリーへの絶対パス。
- WebLogic がインストールされている server¥bin ディレクトリーへの絶対パス。

第5章 IBM Marketing Operations の配置

この章では、Marketing Operations を WebSphere および WebLogic に配置する際の 一般ガイドラインを紹介します。インストーラーを実行した後に EAR ファイルを 作成して他の IBM 製品をその EAR ファイルに含めた場合は、この章に記載され ているガイドラインに従うほか、EAR ファイルに含めた製品の個々のインストー ル・ガイドに記載されているすべての配置ガイドラインに従う必要があります。

ここでは、Web アプリケーション・サーバーでの作業の方法は理解していると想定 します。管理コンソールの使用方法などに関する詳細は、Web アプリケーション・ サーバーの資料を参照してください。

WebSphere での Marketing Operations の配置に関するガイドライン 前提条件

ご使用のバージョンの WebSphere Application Server が、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」という資料で説明されている要件 (必要なフィックスパックやアップグレードを含む)を満たしていることを確認して ください。

WebSphere Integrated Solutions Console を使用して、WebSphere Application Server を構成します。以下のステップでは、個々の制御を設定するためのガイドラインを示します。

注: WebSphere Application Server のバージョンによって、ユーザー・インターフェ ース制御が表示される順序が異なり、別のラベルが使用されていることもありま す。

環境のセットアップ

カスタム・プロパティーを定義します。「アプリケーション・サーバー」
 「<server>」>「Web コンテナー」>「カスタム・プロパティー」フォームで、
「新規」をクリックして、以下を入力します。

名前: com.ibm.ws.webcontainer.invokefilterscompatibility

值: true

- JDBC プロバイダーを作成します。「リソース」>「JDBC」>「JDBC プロバイ ダー」フォームで、「新規」をクリックします。以下のようにして、「新規 JDBC プロバイダーの作成」ウィザードを完了します。
 - 「実装タイプ」で「接続プール・データ・ソース」を選択します。
 - サーバー上の ojdbc6.jar ファイルの場所を指定します。
 - サーバー上の「**ネイティブ・ライブラリー・パス**」を指定します。
- データ・ソースを作成します。「リソース」>「JDBC」>「データ・ソース」フォームで、「新規」をクリックします。以下のようにして、「データ・ソースの作成」ウィザードを完了します。

- 「データ・ソース名」を指定します。
- 「JNDI 名」に plands と入力します。
- ステップ 2 で作成した JDBC プロバイダーを選択します。
- 「データベース名」および「サーバー名」を指定します。
- ・「マッピング構成別名」で WSLogin を選択します。
- データ・ソースのカスタム・プロパティーを定義します。「JDBC プロバイダー」>「
 database provider>」>「データ・ソース」>「
 plan>」>「カスタム・プロパティー」フォームで、「新規」をクリックして、以下の2つのプロパティーを追加します。
 - 名前: User
 - 值: <user name>
 - 名前: Password
 - 值: <password>

Marketing Operations システム・テーブルが DB2 内にある場合は、 resultSetHoldability プロパティーを見つけ、その値を 1 に設定します。このプ ロパティーが存在しない場合は、追加してください。

- 5. JVM を構成します。「アプリケーション・サーバー」>「<server>」>「プロセス 定義」>「Java 仮想マシン」フォームで、「クラスパス」を見つけ、以下の項目 をスペースで区切って「汎用 JVM 引数」として追加します。
 - -Dplan.home=<IBM_EMM_Home>¥<MarketingOperations_Home>

ここで、<*IBM_EMM_Home*> は最上位の IBM ディレクトリーへのパスであり、 <*MarketingOperations_Home*> は Marketing Operations がインストールされて いるディレクトリーへのパスです。通常、このパスは IBM_EMM/ MarketingOperations です。

-Dclient.encoding.override=UTF-8

WAR または EAR ファイルの配置

新規エンタープライズ・アプリケーションを配置する場合、WebSphere Integrated Solutions Console に一連のフォームが表示されます。以下のステップでは、それら のフォームで個々の制御を設定するためのガイドラインを示します。WebSphere の バージョンによって、制御が表示される順序が異なる可能性があります。また、別 のラベルが使用されている場合もあります。

- 「アプリケーション」>「新規アプリケーション」>「新規エンタープライズ・ アプリケーション (New Enterprise Application)」を選択します。
- 2. 初期フォームで、「**リモート・ファイル・システム**」を選択してから、「参 照」で plan.war ファイルまたは EAR ファイルを指定します。
- 次の「アプリケーション・インストールの準備」フォームで、以下のようにします。
 - 「詳細」を選択します。
 - 「デフォルト・バインディングの生成」を選択します。
 - 「既存バインディングをオーバーライドする」を選択します。
- 4. 「インストール・オプションの選択」フォームで、以下のようにします。

- 「JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル」を選択します。
- 「アプリケーション名」に plan と入力します。
- 「Web および EJB モジュールのクラス再ロード設定をオーバーライドする」を選択します。
- ・「再ロード間隔(秒)」では、4などの整数を入力します。
- 5. 「サーバーにモジュールをマップ」フォームで、「モジュール」を選択しま す。EAR を配置した場合は、すべての WAR ファイルを選択してください。
- 「JSP をコンパイルするためのオプションを指定」フォームで、「Web モジュ ール」を選択します。EAR を配置した場合は、すべての WAR ファイルを選 択してください。
 - WebSphere 7.5 を使用している場合は、「JDK ソース・レベル」を 15 に設 定します。
 - WebSphere 8 を使用している場合は、「JDK ソース・レベル」を 16 に設定 します。

EAR を配置した場合は、それぞれの WAR ファイルの「JDK ソース・レベル」を設定してください。

- 7. 「Web モジュールの JSP 再ロード・オプション」フォームで、「JSP: クラス の再ロードを有効にする」を選択し、「JSP: 再ロード間隔 (秒)」に 5 と入力 します。
- 8. 「共有ライブラリーをマップ」フォームで、「アプリケーション」および「モ ジュール」を選択します。
- 9. 「共有ライブラリーの関係をマップ」フォームで、「アプリケーション」および「モジュール」を選択します。
- 10. 「リソース参照をリソースにマップ」フォームで、「ターゲット・リソース JNDI 名」に plands と入力します。
- 11. 「Web モジュールのコンテキスト・ルートをマップ」フォームで、「コンテキ スト・ルート」に /plan と入力します。
- 12. 設定を確認して保存します。

クラス・ローダー・ポリシーの定義

- 「エンタープライズ・アプリケーション」>「plan」>「クラス・ローダー」フォ ームで、「Web および EJB モジュールのクラス再ロード設定をオーバーライ ドする」を選択します。
- 「クラス・ローダー順序」では、「最初にローカル・クラス・ローダーをロード したクラス (親は最後)」を選択します。
- 「WAR クラス・ローダーのポリシー (WAR class loader policy)」で、「アプ リケーション用の単一のクラス・ローダー (Single class loader for application)」を選択します。
- 4. 「適用」をクリックします。

Cookie の設定の定義

- 1. 「エンタープライズ・アプリケーション」>「plan」>「セッション管理」フォームに移動します。
- 2. 「セッション管理のオーバーライド」を選択します。

- 3. 「Cookie を使用可能にする」を選択します。
- 4. 「適用」をクリックして、「エンタープライズ・アプリケーション」>「plan」> 「セッション管理」>「Cookie」フォームに移動します。
- 5. Marketing Operations の 「Cookie 名」を JSESSIONID から UMOSESSIONID に変 更します。
- 6. 「適用」をクリックします。

EAR モジュール設定の定義 (オプション)

EAR を配置した場合は、EAR に含まれている個々の WAR ファイルの設定を定義 する必要があります。

- 1. 「エンタープライズ・アプリケーション」に移動して、EAR ファイルを選択し ます。
- 2. 「モジュールの管理」フォームで、WAR ファイルの 1 つ (例えば、 Campaign.war) を選択します。
- 3. 「エンタープライズ・アプリケーション」>「EAR」>「モジュールの管理」 >「WAR」フォームで、以下のようにします。
 - 「開始ウェイト」を 10000 に設定します。
 - 「クラス・ローダー順序」では、「最初にアプリケーション・クラス・ローダ ーをロードしたクラス」を選択します。
- 「エンタープライズ・アプリケーション」>「EAR」>「モジュールの管理」
 「WAR」>「セッション管理」フォームで、「Cookie を使用可能にする」を選択します。
- 5. 「エンタープライズ・アプリケーション」>「EAR」>「モジュールの管理」
 - **>「WAR」>「セッション管理」>「Cookie**」フォームで、以下のようにします。
 - 「Cookie 名」を CMPJSESSIONID に設定します。
 - 「Cookie 最大存続期間」では、「現行のブラウザー・セッション」を選択します。
- 6. 「エンタープライズ・アプリケーション」>「EAR」>「モジュールの管理」 >「WAR」>「セッション管理」フォームで、以下のようにします。
 - 「**オーバーフローの**許可」を選択します。
 - ・「メモリー内の最大セッション・カウント」に 1000 と入力します。
 - 「セッション・タイムアウト」で「タイムアウトの設定」を選択し、30 と入 力します。
- 7. 他の WAR ファイル (unica.war や plan.war など) のそれぞれについても同じ 設定を定義します。

注: Campaign.war ファイルが EAR 内にも存在し、 Marketing Operations と Campaign とを統合する計画の場合、 Campaign.war ファイルに対して同じ設定 を定義してください。

WebLogic での Marketing Operations の配置に関するガイドライン

作業を開始する前に、以下の点に注意してください。

- IBM EMM 製品は、WebLogic によって使用される JVM をカスタマイズしま す。 JVM に関連したエラーが生じた場合、IBM EMM 製品に専用の WebLogic インスタンスを作成しなければならないことがあります。
- 同一の WebLogic ドメインに複数の Marketing Operations アプリケーションをイ ンストールしないでください。
- ・ 起動スクリプト (startWebLogic.cmd) の中の JAVA_VENDOR 変数を参照して、 使用する WebLogic ドメイン用に選択された SDK が Sun SDK であることを確認します。その変数は、JAVA_VENDOR=Sun に設定されている必要があります。それが JAVA_VENDOR=BEA に設定されている場合、JRockit が選択されています。 JRockit はサポートされていません。選択されている SDK を変更する方法については、WebLogic の文書を参照してください。

以下のステップを実行します。

 AIX[®]のみ。ご使用のオペレーティング・システムが AIX である場合は、 Marketing Operations の WAR ファイルを解凍し、xercesImpl.jar ファイルを WEB INF/lib ディレクトリーから削除して、WAR ファイルを再作成します。

インストーラーによって製品が EAR ファイルにまとめられている場合は、まず、そのファイルを解凍して WAR ファイルを取得してから、EAR ファイルを再 作成する必要があります。

- 2. IIS プラグインを使用するように WebLogic を構成する場合は、WebLogic の資料を見直して、他にも要件があるかどうかを確認します。
- 3. WebLogic ドメイン・ディレクトリーの下の bin ディレクトリーで、 setDomainEnv スクリプトを見つけ、テキスト・エディターで開きます。

スクロールして JAVA_OPTIONS プロパティーを表示し、次の項目を追加します。 項目を区切るにはスペースを使用します。

-Dplan.home=<IBM_EMM_Home>¥<MarketingOperations_Home>

ここで、 *<IBM_EMM_Home>* は最上位の IBM ディレクトリーへのパスであり、 *<MarketingOperations_Home>* は Marketing Operations がインストールされて いるディレクトリーへのパスです。通常、このディレクトリーは IBM EMM/MarketingOperations です。

- -Dfile.encoding=UTF-8
- -DPLAN_CONFIG_GUID=Plan
- 4. ファイルを保存して閉じます。
- 5. WebLogic を再始動します。
- 6. Marketing Operations を Web アプリケーション・モジュールとして配置しま す。 plan.war を選択します。
- 7. 配置した Web アプリケーションを開始します。
第6章 配置後の IBM Marketing Operations の構成

Marketing Operations アプリケーションを配置して開始した後に、インストール済み 環境にログインして確認することができます。この章では、いくつかの基本的な構 成ステップ (システム・ユーザーおよびテスト・ユーザーの構成、E メールおよび マークアップのセットアップ) について説明しますが、「*Marketing Operations 管理* 者ガイド」に記載されている、追加のシステム・セットアップ・タスクもありま す。

さらに、IBM EMM レポート作成機能を使用する場合、 39 ページの『第 7 章 レポ ートのインストール』で説明されている方法で、タスクを実行する必要がありま す。

ステップ: インストールの確認

1. Internet Explorer を使って IBM EMM URL にアクセスします。

インストール時にドメインを入力した場合、URL は次のようになります。この 場合、host は Marketing Platform がインストールされているマシン、 domain.com はホスト・マシンが常駐しているドメイン、port は Web アプリケ ーション・サーバーが listen するポート番号です。

http://host.domain.com:port/unica

2. デフォルトの管理者ログイン情報 (asm_admin) を使用してログインします。この ユーザーのパスワードは Marketing Platform インストールの検証時に既に変更さ れているはずです。

初回ログインの場合、このユーザーのパスワードのデフォルト値は password で す。パスワードを変更するよう求められます。既存のパスワードを入力すること もできますが、新しいパスワードを選択することをお勧めします。

デフォルトのホーム・ページは Dashboard であり、ダッシュボードがセットア ップされるまでブランク・ページになります。「404 page not found」というメ ッセージが表示される場合は、Dashboard の WAR ファイルが適切に配置されて いません。Dashboard の WAR ファイルの配置方法に関する説明については、 「*Marketing Platform インストール・ガイド*」を参照してください。

- 3. 「設定」>「構成」を選択し、左側のリストに Marketing Operations が表示され ていることを確認します。その後、「Marketing Operations」セクションを展開し て、「umoConfiguration」カテゴリーがリストに表示されていることを確認しま す。
- (オプション) ダッシュボードを構成するまで、このページを「ホーム」ページにします。そのようにすると、ログインするたびにブランク・ページが表示されなくなります。

ステップ: asm_admin ユーザーに Marketing Operations へのアクセス 権限を付与する

デフォルトの管理ユーザーである asm_admin は、自動的に、Marketing Operations 構成プロパティーへのアクセス権限を持ちます。ただし、Marketing Operations アプ リケーションへのアクセス権限を持つデフォルト・ユーザーは、構成しない限り存 在しません。

- グループを作成します。例えば、「設定」>「ユーザー・グループ」>「新しいグ ループ」と選択して、Default-MarketOps-Group をセットアップします。
- 2. PlanAdminRole 役割および PlanUserRole 役割をグループに割り当てます。
- 3. asm_admin ユーザーをグループに割り当てます。
- 4. アプリケーション・サーバーを再始動します。
- 5. asm_admin として再度ログインします。
- 6. 「操作」>「計画」を選択することによって、Marketing Operations フィーチャー にアクセスできることを確認してください。

ステップ:マークアップ・オプションの構成 (必要な場合)

Marketing Operations は、添付ファイルに関するコメントを入力するためのマークア ップ・ツールを備えています。Marketing Operations ユーザーがレビューの承認を送 信する場合、承認者は、自身のコメントを直接、電子ファイルに付けて、他のユー ザーが参照できるようにすることができます。

Marketing Operations は、2 つのタイプのマークアップ・ツールを提供します。

- ネイティブ Marketing Operations マークアップ:ネイティブ・マークアップ・オ プションは、PDF、HTML、JPG、PNG、GIF、および BMP の各形式のファイル に適用できる各種のマークアップ機能を提供します。URL がわかれば、ユーザー は Web サイト全体にマークアップを付けることができます。その後、コメント を Marketing Operations に保存できます。ネイティブ・マークアップはデフォル ト・オプションです。Acrobat をクライアント・マシンにインストールする必要 はありません。
- Adobe Acrobat マークアップ: このマークアップ・ツールの場合、Adobe Acrobat を各クライアント・マシンにインストールする必要があります。ユーザーは、 Acrobat のすべてのコメント機能を適用することができ、編集した PDF を Marketing Operations に保存することができます。

マークアップ・オプションはグローバル設定です。(異なるユーザーのグループに対して異なるマークアップ・オプションを有効にすることはできません。)

(オプション) Adobe マークアップ・オプションの構成

Marketing Operations を配置するときに、デフォルトで、システムはネイティブ・マ ークアップ・オプションを使用するように構成されます。代わりに Adobe マークア ップ・オプションを使用する場合は、Marketing Operations で、「設定」>「構成」 >「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「markup」を選択してくださ い。その後、以下の値を指定してマークアップ・プロパティーを構成します。

• markupServerType を SOAP に設定します。

 markupServerURL を Marketing Operations ホスト・サーバーの URL (完全修飾 ホスト名、および Web アプリケーション・サーバーが listen するポートを含む) に設定します。次のパス形式を使用してください (<server> および <port> の値 は該当のものに置き換えてください)。

http://<server>:<port>/plan/services/collabService?wsdl

• useCustomMarkup を True に設定します。

これらの構成設定により、すべてのユーザーについて Adobe マークアップが有効に なります。

(オプション) クライアント・マシンでの Adobe のインストールと構成

ユーザーが Adobe マークアップを有効に利用できるようにするため、IBM Marketing Operations へのアクセスに使用される各クライアント・マシンに Adobe Acrobat をインストールする必要があります。

Microsoft Windows プラットフォームにインストールするたびに、 Marketing Operations インストール・ディレクトリーの下の *<MarketingOperations_Home>*¥tools にある、カスタマイズされた UMO_Markup_Collaboration.js ファイルをクライアント・マシンにコピーする必要 があります。このファイルを Adobe Acrobat がインストールされているディレクト リーの JavaScripts サブディレクトリーにコピーします。以下に例を示します。

C:¥Program files¥Adobe¥Acrobat 6.0¥Acrobat¥Javascripts¥UM0_Markup_Collaboration.js

sdkSOAPCollabSample.js ファイルがこのディレクトリー内にある場合は削除してく ださい。このファイルは UMO_Markup_Collaboration.js ファイルに置き換えられま す。

次のことに注意してください。

- ユーザーが他の承認者のコメントを見られない場合、 UM0_Markup_Collaboration.js ファイルが欠落しているか、または正しくない可 能性があります。
- このファイルをコピーする前に Acrobat を実行した場合は、マークアップ機能を 使用するためにコンピューターをリブートする必要があります。

また、Internet Explorer ブラウザーを使用して IBM Marketing Operations にアクセ スするユーザーは、PDF がブラウザーに表示されるように Internet Explorer の設定 を指定する必要があります。

ステップ: E メール設定の構成

Marketing Operations のワークフローは、E メール通知に大幅に依存するため、使用 する SMTP サーバーをインストール時に指定することをお勧めします。

- 1. 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」> 「umoConfiguration」> 「email」を選択します。
- 2. 「設定の編集」をクリックします。

- 3. notifyEMailMonitorJavaMailHost プロパティーの値を組織の SMTP サーバーの マシン名または IP アドレスに設定します。
- notifyDefaultSenderEmailAddress プロパティーの有効な E メール・アドレス を指定します。システムは、E メール通知を送信するための有効な E メール・ アドレスがない場合には、このアドレスを使用して、E メールを送信します。
- 5. 変更を保存します。

ステップ: Campaign との統合の構成 (必要な場合)

Marketing Operations は、必要に応じて IBM Campaign と統合されます。 Marketing Operations と Campaign が統合されていると、Marketing Operations のマーケティン グ・リソース管理機能を使用して、キャンペーンを作成、計画、承認することができます。

Campaign 統合が有効になっている場合は、オファー統合を有効にして、オファーの ライフサイクル管理タスクを Marketing Operations で実行できるようにするオプシ ョンもあります。

Campaign との統合を有効にするには、Marketing Operations にログインし、「設 定」>「構成」ページで以下のプロパティーを設定します。

- **[IBM EMM] > [Platform]** :
 - IBM Marketing Operations Campaign の統合 (MO_UC_integration を有効にす る必要があります)
 - IBM Marketing Operations オファー統合 (オプション。Campaign 統合が有効 な場合)
- 「IBM EMM」>「Campaign」>「partitions」>「partition[n]」>「サーバー」> 「内部」:
 - MO_UC_integration (以下の3つのオプション設定のいずれかを有効にする予定の場合は、このオプションを「はい」に設定します)
 - MO_UC_BottomUpTargetCells
 - Legacy_campaigns
 - IBM Marketing Operations オファー統合
- 「IBM EMM」 > 「Marketing Operations」 > 「umoConfiguration」 > 「campaignIntegration」 :
 - defaultCampaignPartition
 - webServiceTimeoutInMilliseconds

詳しくは、「Marketing Operations および Campaign 統合ガイド」を参照してください。

ステップ: 統合システム用の DB2 データベースの構成

インストール済み環境で DB2 データベースが使用されており、 IBM Marketing Operations が Campaign と統合され、さらにオファーを統合している場合は、デー タベースのタイミング・パラメーターを構成する必要があります。

 DB2 管理ユーティリティー (get db cfg) を使用して、LOCKTIMEOUT および DLCHKTIME パラメーターの設定を確認します。 2. 以下のように、ロックのタイムアウト期間を 10 秒に設定します。

update db cfg using LOCKTIMEOUT 10

3. 以下のように、デッドロックのチェック時間を 15,000 ミリ秒に設定します。

update db cfg using DLCHKTIME 15000

これらの設定により、複数のユーザーがデータベース表に同時にアクセスしたときにデッドロック状態が発生しないようにします。

第7章 レポートのインストール

レポート作成機能のために、Marketing Operations は、別個のビジネス・インテリジ エンス・アプリケーションである IBM Cognos と統合します。レポート作成は、以 下のコンポーネントに依存します。

- 「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」で指定 された要件を満たす IBM Cognos インストール済み環境。
- IBM システムを IBM Cognos インストール済み環境と統合する一連の IBM Enterprise Marketing Management (EMM) コンポーネント。
- IBM Cognos Report Authoring を使用して作成された、 Marketing Operations ア プリケーションのレポートの例。

Marketing Platform は、レポート作成機能の統合の IBM サイドを提供します。レポ ート作成機能のインストールを完了するには、IBM Cognos システムで以下のレポ ート・パッケージ・インストーラーをすべて実行します。

- IBM
- IBM Marketing Platform
- IBM Marketing Operations

IBM Marketing Operations のレポート作成をインストールしてセットアップする方法、および個別のコンポーネントとそれらが相互に対話する方法について詳しくは、「*IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド」*を参照してください。

レポートの次のステップ

認証が設定されている構成のテストが終了した後は、レポート作成が正しく機能していて、サンプル・レポートはデフォルトの状態になっています。

- 「ユーザーごとに認証」モードを使用するようにシステムを構成した場合は、該 当する IBM ユーザーが IBM アプリケーションからレポートを実行できるよう にしてください。これを実行する最も簡単な方法は、デフォルトの ReportsUser 役割を適切なユーザー・グループまたはユーザーに割り当てる方法です。
- Framework Manager データ・モデルおよび Report Authoring レポートに関する一 般情報については、「IBM Marketing Platform 管理者ガイド」内の『レポートの 構成』という章を参照してください。 Marketing Operations レポートの構成およ びカスタマイズについては、「IBM Marketing Operations 管理者ガイド」の『レ ポートの使用』の章を参照してください。
- ダッシュボード内で Cognos ダッシュボード・レポートを使用するには、「IBM Marketing Platform 管理者ガイド」の『ダッシュボードの作成と管理』の章を参照してください。

第8章 クラスターでの IBM Marketing Operations のインスト ール

IBM Marketing Operations をクラスターにインストールするには、第2章から第7 章までの説明に従いながら、この章で示す情報をそれらの手順に補足します。

Marketing Operations をクラスターにインストールする場合、インストールを構成す る方法はいろいろあります。ただし、基本的なプロセスがあります。

- 1. 1 つのシステムでインストーラーを実行します。通常は、管理サーバー (または ご使用のアプリケーション・サーバー・タイプにおいて同等のもの)です。
- 2. すべての Marketing Operations インストールのアップロード・ファイルを保管す るためのファイル・ディレクトリーを作成し、共有します。
- 3. EAR ファイルを作成し、それをクラスター内の各マシンに配置します。
- 4. 各システムが同じ Marketing Platform システム・テーブル、および同じ Marketing Operations システム・テーブルを共有するように構成します。
- 5. 各システムが共有ファイル・ディレクトリーを使用するように構成します。
- クラスター内のどのマシンが通知を送信するかを決定します。次に、その他のすべてのマシンで通知プロセスを抑制します。
- 7. クラスター内のすべてのサーバーについて UMOSESSIONID Cookie を有効にし ます。
- 8. テンプレートおよびオファー・フォルダーの分散キャッシュ用の plan ehcache.xml を構成します。

WebLogic のクラスターでのインストール

Marketing Operations を WebLogic のクラスターでインストールする場合は、第2 章から第7章までの作業が完了した時点で、以下の変更および追加を行ってください。

インストールの準備

作業を開始する前に、クラスターの WebLogic ドメインを作成する必要がありま す。このステップに関するヘルプについては、WebLogic の資料を参照してくださ い。

データ・ソースの準備

データ・ソースの章では、Marketing Operations 用のデータベースを作成し、その JDBC データ・ソースをアプリケーション・サーバーに構成する手順を示します。 クラスターについてそれらの作業が完了したら、さらに、以下の指示についても注 意してください。

 クラスター内のすべてのマシンで正しい JDBC ドライバーを使用するように Web アプリケーション・サーバーを構成する必要があります。

- Marketing Platform システム・テーブル (UnicaPlatformDS) のデータ・ソースを管理サーバーとクラスター・メンバーの両方で作成してください。
- Marketing Operations システム・テーブル (plands) のデータ・ソースを作成した ら、それを管理サーバーではなく、クラスターに配置します。「クラスター内の すべてのサーバー (All servers in the cluster)」を選択してください。

製品のインストール

インストーラーを実行するときには、必ず、クラスターの管理サーバーとして指定 されているマシンに Marketing Platform および Marketing Operations を 1 回インス トールしてください。それぞれのクラスター・メンバーにソフトウェアをインスト ールする必要はありません。その代わりに、(管理サーバーで) インストールを 1 回 実行し、EAR を作成して、その EAR ファイルをそれぞれのクラスター・メンバー に配置します。

追加の配置前手順

Marketing Operations を配置する前に、配置前の構成に関する章で記載したタスクに 加えて、以下のタスクを実行します。

- Marketing Operations のインストール先の最上位ディレクトリーを共有します。例 えば、 Marketing Operations が C:¥Mkt0psCluster¥IBM_EMM¥MarketingOperations というディレクトリーにインストールされているとします。この場合は、 Mkt0psCluster ディレクトリー全体を共有します。
- Marketing Operations のアップロード・ファイルを格納するためのフォルダーを管理サーバー上に作成し、共有します。このフォルダーは Shared_UMO_Artifacts フォルダーと呼ばれます。すべてのクラスター・メンバーは、このフォルダーの 完全な制御権 (読み取り、書き込み、変更、および削除)を持っていなければなり ません。必要に応じて、このフォルダーをローカル・ファイル・システム階層の IBM ホーム・ディレクトリーの下に置くことができます。

WebLogic でのアプリケーションの配置

配置に関する章の指示に加え、以下の追加指示および 1 つの例外事項に注意してく ださい。

1. ソース・アクセシビリティー・オプションの設定

EAR を管理サーバーに配置する場合は、「ソース・アクセシビリティー (Source accessibility)」オプションを「配置対象で定義されているデフォルトを使用する (Use the defaults defined by the deployment's targets)」に設定します。

2. JAVA_OPTIONS の設定に関する追加指示

setenv ファイルの JAVA_OPTIONS プロパティーをクラスター内の各マシンで構成 するのを忘れないでください。

plan.home プロパティーで指定するパスは、共有インストール・ディレクトリーを ポイントしていなければなりません。

クラスターについて以下の追加のパラメーターを設定する必要があります。

 通知を送信するべきでないマシンでは、「通知の抑制」パラメーターを次のよう に設定します。

-Dplan.suppressNotifications=true

通知を送信するように指定されたマシンでは、 suppressNotifications プロパティーが false に設定されていることを検証してください。他のすべてのマシンでは、このプロパティーを true に設定します。

3. 代替 ehcache ファイルの定義

CONF ディレクトリーで定義されている plan_ehcache.xml ファイルは、クラスター 内のすべてのノードで使用されます。ノード上のこのデフォルトのファイルをオー バーライドするには、そのノードで startWeblogic.cmd (Windows の場合) または startWeblogic.sh (UNIX の場合) を編集して、JAVA_OPTIONS プロパティーを構 成します。-plan_ehcache パラメーターを追加して、別の plan_ehcache.xml ファ イルの場所を指定してください。

セッション管理 Cookie の構成

クラスター内のサーバーで使用されるセッション管理 Cookie の名前を定義するに は、plan.war ファイルを編集します。このファイルは、インストーラーによって作 成され、アプリケーション・サーバーに配置されます。

- 1. コマンド・プロンプトを開き、Java のバージョンが Marketing Operations で使 用される JRE と同じであることを確認します。java -version と入力してくだ さい。
- 2. plan.war を一時フォルダーにコピーして、元の plan.war ファイルの名前を変 更します。
- 3. 新しい一時アーカイブ plan.war の中身を解凍します。jar -xvf plan.war と入 力してください。
- 4. 解凍済みの plan.war を削除します。rm plan.war と入力してください。
- 5. WEB-INF ディレクトリーに移動します。cd WEB-INF と入力してください。
- 6. web.xml ファイルを編集して、このタグを追加し、Cookie 名をオーバーライド します。

- 7. plan.war を再び圧縮します。cd .. と入力してから、jar -cvf * plan.war と 入力してください。
- 8. 更新した plan.war をコピーしてサーバー上の元の場所に戻します。
- 9. 更新した plan.war を配置します。

追加の配置後手順

ロード・バランシングのプラグインを使用する場合は、以下の構成手順を実行する 必要があります。

 IBM Marketing Operations がクラスター環境で効率的に動作するためには、ユー ザーはそのセッションの間ずっと1つのノード上にとどまらなければなりませ ん。セッション管理およびロード・バランシングのためのこのオプションは、ス ティッキー・セッションまたはスティッキー・ロード・バランシングと呼ばれま す。このオプションを使用するようにインストールを構成する方法について詳し くは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

注: この構成オプションを使用するシステムでノードに障害が発生した場合、そのノード上のすべてのユーザー・セッションも障害が発生します。ユーザー認証は Marketing Operations 内の単一ノードにのみ適用されるため、ロード・バランサーは、使用可能な別のノードにユーザーを切り替えることはしません (また、切り替えるべきではありません)。ユーザーに再ログインするよう求めるプロンプトが表示されます。場合によっては、予期しないエラーや、対応するデータ損失が発生する可能性があります。

- Marketing Operations にログインし、「設定」>「構成」を選択します。Marketing Operations サーバーに対するすべての参照でプロキシー・ホストおよびプロキシ ー・ポートが使用されるようにするため、以下の URL パラメーターを構成しま す。
 - Marketing Operations | navigation | serverURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | markup | markupServerURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | notifications | notifyPlanBaseURL

WebSphere におけるクラスターへのインストール

WebSphere におけるクラスターに Marketing Operations をインストールする場合 は、第2章から第7章までのタスクを実行する際に、以下の変更および追加を行 います。

データ・ソースの準備

データ・ソースの章では、Marketing Operations 用のデータベースを作成し、その JDBC データ・ソースをアプリケーション・サーバーに構成する手順を示します。 WebSphere 上のクラスターに対してこれらのタスクを実行するときは、以下に示す 追加の指示に注意してください。

- Marketing Operations データベースは、クラスター内のすべてのマシンにとってア クセス可能なマシン上に存在しなければなりませんが、クラスター内のマシン上 である必要はありません。
- JDBC プロバイダーを構成するときに、スコープとしてクラスターを指定します。

製品のインストール

インストーラー実行の手順に従う際は、Marketing Operations クラスター内のすべて のマシンにとってアクセス可能なマシン上に、Marketing Platform および Marketing Operations を 1 回インストールするようにします。

それぞれのクラスター・メンバーにソフトウェアをインストールする必要はありま せん。その代わり、ソフトウェアを 1 回インストールし、EAR を作成して、その EAR ファイルを各クラスター・メンバーに配置します。

追加の配置前手順

Marketing Operations を配置する前に、配置前の構成に関する章で記載したタスクに 加えて、以下のタスクを実行します。

- Marketing Operations のインストール先の最上位ディレクトリーを共有します。例 えば、Marketing Operations を C:¥MktOpsCluster¥IBM_EMM¥MarketingOperations にインストールするとします。この場合は、MktOpsCluster ディレクトリー全体 を共有します。
- Marketing Operations のアップロード・ファイルを格納するためのフォルダーを管理サーバー上に作成し、共有します。このフォルダーは Shared_UMO_Artifacts フォルダーと呼ばれます。すべてのクラスター・メンバーは、このフォルダーの 完全な制御権 (読み取り、書き込み、変更、および削除)を持っていなければなり ません。必要に応じて、このフォルダーをローカル・ファイル・システム階層の IBM ホーム・ディレクトリーの下に置くことができます。

追加の配置手順

配置の章に記載されている説明のほかに、以下に示す追加事項に注意してください。

1. サーバーへのモジュールのマップ

WebSphere の「**インストール・オプションの選択**」ウィザードでオプションを設定 するときに、モジュールをサーバーにマップする際のクラスターおよび Web サー バーを選択します。

2. 汎用 JVM プロパティーに関する追加の手順

クラスター内の各マシンで、汎用 JVM プロパティーを構成します。

plan.home およびその他のプロパティーで指定するパスは、共有インストール・デ ィレクトリーを指していなければなりません。

以下の追加のパラメーターを設定します。

- -DPLAN_CONFIG_GUID=Plan
- -Dplan.log.config=¥¥umoMachine¥SharedUnicaHome¥MarketingOperations ¥conf¥plan_log4j_client.xml
- -Dplan.local.log.dir=local_log_dir (ここで local_log_dir は、Marketing Operations がログを作成する、物理マシン上の書き込み可能フォルダーです)
- 通知を送信するべきでないマシンでは、「通知の抑制」パラメーターを次のよう に設定します。

-Dplan.suppressNotifications=true

通知を送信するノードを除くすべてのノードで、このプロパティーを設定しま す。

 ノードの CONF ディレクトリーに定義されたデフォルト・ファイルの代わりに、 別の plan_ehcache.xml ファイルを使用するには、そのノードについて -plan ehcache パラメーターを設定して、ファイルの場所を指定します。

セッション管理 Cookie の構成

クラスター内のサーバーによって使用されるセッション管理 Cookie の名前を定義 する必要があります。セッション管理 Cookie を構成するには、以下のようにしま す。

- WebSphere コンソールで、クラスター内のサーバーに関するプロパティーにアク セスします。Web コンテナー設定にナビゲートし、セッション管理構成を開き ます。
- 2. Cookie を有効にし、UMOSESSIONID を Cookie 名として指定します。
- 3. 設定を保存し、クラスター内のすべてのサーバーについてこの手順を繰り返しま す。

追加の配置後手順

ロード・バランシングのプラグインを使用する場合は、以下の構成手順を実行する 必要があります。

 IBM Marketing Operations がクラスター環境で効率的に動作するためには、ユー ザーはそのセッションの間ずっと1つのノード上にとどまらなければなりませ ん。このセッション管理およびロード・バランシングのオプションは、セッショ ン・アフィニティーと呼ばれます。セッション・アフィニティーを使用するよう にインストール済み環境を構成する方法について詳しくは、ご使用のアプリケー ション・サーバーの資料を参照してください。

注: この構成オプションを使用するシステムでノードに障害が発生した場合、そのノード上のすべてのユーザー・セッションも障害が発生します。ユーザー認証は Marketing Operations 内の単一ノードにのみ適用されるため、ロード・バランサーは、使用可能な別のノードにユーザーを切り替えることはしません (また、切り替えるべきではありません)。ユーザーに再ログインするよう求めるプロンプトが表示されます。場合によっては、予期しないエラーや、対応するデータ損失が発生する可能性があります。

- Marketing Operations にログインして、「設定」>「構成」を選択し、以下の URL パラメーターを構成して、Marketing Operations サーバーへのすべての参照でプロ キシー・ホストおよびポートが使用されるようにします。
 - Marketing Operations | navigation | serverURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | markup | markupServerURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | notifications | notifyPlanBaseURL

共有フォルダー・プロパティーの構成

Marketing Operations アプリケーションを配置する前に、Shared_UMO_Artifacts というフォルダーを作成しました。ここでは、各種のアップロード・ファイル用のフォルダーを指定するそのプロパティーの値がその場所をポイントするように設定する必要があります。

- 1. ログインして、「設定」>「構成」を選択します。
- 2. 「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「templates」を選択します。

- 「設定の編集」をクリックしてから、templatesDir プロパティーの値を更新して、Shared_UMO_Artifacts フォルダーのサブフォルダーをポイントするようにします。
- 4. 変更を保存します。
- 5. 「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「attachmentFolders」を選択 します。
- 6. 「設定の編集」をクリックしてから、このカテゴリーのすべてのプロパティーの 値を更新して、Shared_UMO_Artifacts フォルダーのサブフォルダーをポイント するようにします。
- 7. 変更を保存します。

ehcache の構成

ehcache は、汎用キャッシュ、Java EE、および単純なコンテナー用のオープン・ソ ース Java 分散キャッシュです。クラスター内のすべてのノードで同じ plan_ehcache.xml ファイルを使用することも、ノードごとに異なる plan ehcache.xml ファイルを指定することもできます。

クラスターでのインストールの場合、テンプレートまたは提供フォルダーに変更を 加えたときにシステムを再始動しなくても済むようにするため、plan_ehcache.xml ファイルを編集することができます。キャッシュの複製に RMI とマルチキャスト のどちらを使用するかに応じて、以下のいずれかの手順を選択してください。

重要:インストール済み環境が以前のバージョンからアップグレードされたものである場合、plan_ehcache.xmlファイルの一部または全部のセクションが存在しないことがあります。その場合は、以下のセクションで示されているように、ファイルを追加および編集してください。

RMI を使用して ehcache を構成するには

通常、以下のトポグラフィーの Marketing Operations システムでは RMI を使用します。



クラスター化されたトポグラフィー 1: ehcache を RMI で構成する

<*IBM_EMM_Home>*¥<*MarketingOperations_Home>*¥conf ディレクトリーに移動し、テキスト・エディターで plan_ehcache.xml ファイルを開きます。その後、以下の編集 作業を行います。

• ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

```
太字の項目 (machineA、machineB、およびポート) は、ご使用の環境に合わせて
カスタマイズする必要があります。完全修飾ホスト名を使用して、クラスター内
のすべてのマシンを縦棒 ()) で区切って指定してください。
```

```
<!--
  <cacheManagerPeerProviderFactory
  class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerProviderFactory"
  properties="peerDiscovery=manual,
  rmiUrls=//<machineA>:40000/planApplicationCache///<machineB>:
  40000/planApplicationCache"/>
  <cacheManagerPeerListenerFactory
  class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerListenerFactory"
  properties="port=40000, socketTimeoutMillis=20000"/>
  -->

    ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

  < | _ _
  <cacheEventListenerFactory
  class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheReplicatorFactory"
  properties="replicateAsynchronously=true, replicatePuts=true,
  replicateUpdates=true, replicateUpdatesViaCopy=true,
  replicateRemovals=true"/>
  <cacheEventListenerFactory
  class="com.unicacorp.uap.common.cache.PlanCacheEventListenerFactory
  "net.sf.ehcache.distribution.RMIBootstrapCacheLoaderFactory" />
  -->
```

• 次の行がファイルに含まれている場合は削除します。

<bootstrapCacheLoaderFactory class=net.sf.ehcache.distribution.
RMIBootstrapCacheLoaderFactory"/>

マルチキャストを使用して ehcache を構成するには

通常、以下のトポグラフィーの Marketing Operations システムではマルチキャスト を使用します。



クラスター化されたトポグラフィー 2: ehcache をマルチキャストで構成する

<IBM_EMM_Home>¥<MarketingOperations_Home>¥conf ディレクトリーに移動し、テキ スト・エディターで plan_ehcache.xml ファイルを開きます。その後、以下の編集 作業を行います。

• ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

太字の項目 (multicastGroupAddress および multicastGroupPort) は、ご使用の環境 のマルチキャスト・グループおよびポートに合わせてカスタマイズする必要があ ります。 <!--<cacheManagerPeerProviderFactory class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerProviderFactory" properties="peerDiscovery=automatic, multicastGroupAddress=**230.0.0.1**, multicastGroupPort=**4446**, timeToLive=32"/>

<cacheManagerPeerListenerFactory class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerListenerFactory"/> -->

• ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

```
<!--
<cacheEventListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheReplicatorFactory"
properties="replicateAsynchronously=true, replicatePuts=true,
replicateUpdates=true, replicateUpdatesViaCopy=true,
replicateRemovals=true"/>
<cacheEventListenerFactory
class="com.unicacorp.uap.common.cache.PlanCacheEventListenerFactory" />
-->
```

• また、次の行がファイルに含まれている場合は削除します。

```
<bootstrapCacheLoaderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMIBootstrapCacheLoaderFactory"/>
```

第9章 IBM Marketing Operations のアップグレード

以前のバージョンの Marketing Operations からアップグレードする前に、アップグ レード・プロセスが正常に行われるようにするため、このセクション内のすべての トピックをお読みください。

すべての IBM EMM 製品のアップグレード前提条件

どの IBM EMM 製品をアップグレードする場合にも、2ページの『前提条件』の下の『インストールの準備』の章でリストされている前提条件すべてを満たしている 必要があります。

それに加えて、このセクションでリストされている前提条件も満たしている必要が あります。

以前のインストールによって生成された応答ファイルの削除

インストーラーを実行して 8.6.0 より前のバージョンからアップグレードを行う前 に、以前のインストールによって生成された応答ファイルをすべて削除する必要が あります。

インストーラーの動作と応答ファイルの形式に変更が加えられているため、以前の 応答ファイルには 8.6.0 以降のインストーラーとの互換性がありません。

以前の応答ファイルを削除しないと、インストーラーの実行時にインストーラー・ フィールドに正しくないデータが事前に取り込まれていたり、あるいは、インスト ーラーによっていくつかのファイルがインストールされなかったり、構成ステップ がスキップされたりする可能性があります。

応答ファイルの名前は installer_<product><version>.properties です。ただし、 IBM インストーラー自体のファイルの場合はこれとは異なり、 installer.properties という名前です。インストーラーは、インストール時にユー ザーによって指定されたディレクトリーにこれらのファイルを作成します。デフォ ルトの場所は、ユーザーのホーム・ディレクトリーです。

ユーザー・アカウント要件 (UNIX のみ)

UNIX の場合、製品をインストールしたものと同じユーザー・アカウントがアップ グレードを実行する必要があります。

32 ビットから 64 ビットへのバージョンアップ

32 ビットから 64 ビットに IBM EMM 製品をバージョンアップする場合、以下の 条件が満たされていることを確認してください。

 製品データ・ソースのデータベース・クライアント・ライブラリーも 64 ビット である 関連するすべてのライブラリー・パス (例えば、開始スクリプトまたは環境スク リプト)が 64 ビット・バージョンのデータベース・ドライバーを正しく参照し ている

知識要件

これらの説明では、アップグレードを実行するユーザーが以下の分野について理解 していることを前提としています。

- 11 ページの『IBM EMM インストーラーの機能』で説明されている、IBM イン ストーラーの基本機能。
- 一般的な IBM EMM 製品機能およびコンポーネント (ファイル・システムの構造 を含む)
- ソース製品バージョンおよび新規バージョンのインストールと構成のプロセス
- ソース・システムおよびターゲット・システムでの構成プロパティーの保守
- ・ レポートのインストールと構成のプロセス (そのレポートを使用している場合)

エラーと警告メッセージのある場所

システムはアップグレード・プロセスの際に生成するメッセージをログに記録しま す。参照情報として、それらのメッセージが含まれるログ・ファイルは以下のファ イルおよびデータベース表にあります。

- <IBM_EMM_Home>/Unica_Installer_InstallLog.log
- <MarketingOperations_Home>/MarketingOperations_InstallLog.log
- <Platform_Home>/Platform_Installa.log
- /mnt/data/home1/<machine_name>/<username>/UnicaInstaller_stdout.log
- /mnt/data/home1/<machine_name>/<username>/UnicaInstaller_stderr.log
- /mnt/data/home1/<machine_name>/<username>/Platform_stdout.log
- /mnt/data/home1/<machine_name>/<username>/Platform_stderr.log
- /mnt/data/home1/<machine_name>/<username>/MarketingOperations_stdout.log
- /mnt/data/home1/<machine_name>/<username>/MarketingOperations_stderr.log
- WAS_Profile_Home/logs/server1 には、IBM Marketing Operations のシステム・ ログが含まれています。

既存のキャンペーン・プロジェクトまたは要求でのアップグレードについて

Campaign と統合されている Marketing Operations システムをアップグレードしてお り、対応する連携キャンペーンが作成されていない既存のキャンペーン・プロジェ クトがある場合、Marketing Operations にアップグレードする前に、連携キャンペー ンを作成してください。同様に、キャンペーン・プロジェクト用の既存のプロジェ クト要求がある場合は、Marketing Operations にアップグレードする前に、要求を受 け入れるか、または拒否してください。

アップグレードする前にプロジェクトをリンクしない場合、システムがアップグレードされた後に、これらのプロジェクトのキャンペーンを作成しようとするか、これらの要求を受け入れようとしたときに、キャンペーンが正しく Marketing Operations プロジェクトにリンクされません。

Marketing Operations アップグレード・シナリオ

Marketing Operations をアップグレードする場合は、以下のガイドラインに従ってください。

表6. Marketing Operations 9.0.0 のためのサポートされるアップグレード・パス

ソース・バージョン	アップグレード・パス
8.x.x	このガイドの説明に従って、インストール済み環境をバージョ ン 9.0.0 にアップグレードします。
7.5.x	 Marketing Operations 8.5.0 にアップグレードしてから Marketing Operations 9.0.0 にアップグレードする必要があります。 バージョン 8.5.0 へのアップグレードについては、「IBM Marketing Operations 8.5 インストール・ガイド」を参照してください。

Marketing Operations をアップグレードするには

Marketing Operations の以前のバージョンは Affinium Plan という名前でした。本書 では、すべてのバージョンを Marketing Operations と呼んでいます。

Marketing Operations をアップグレードするには、既存のインストール済み環境をバックアップし、 Marketing Platform がアップグレードされて稼働していることを確認し、インストーラーを実行し、トリガー手順があればすべて復元し、アップグレードされたアプリケーションを配置し、次にいくつかの配置後の処理を実行します。

ステップ:アップグレードの開始前にシステムをバックアップする

アップグレード・プロセスを開始する前に、確実に現在のインストール済み環境内 のすべてのものを正しくバックアップするように、このタスクのステップを実行し てください。

- 1. 既存のバージョンの Marketing Operations を配置解除します。
- 既存のインストール・フォルダー内のすべてのファイルおよびディレクトリーを バックアップします。

注: サンプル・トリガー手順または procedure_plugins.xml ファイルを変更し た場合、トリガー手順が失われないように、アップグレード後にバックアップか らファイルを復元する必要があります。復元する必要のあるファイル

- は、/devkits/integration/examples/src/procedure フォルダー内にあります。
- 3. Marketing Operations システム・テーブルを保持するデータベースをバックアップします。

ステップ: Marketing Platform がアップグレードされたことを確 認する

Marketing Operations をアップグレードする前に、Marketing Platform をアップグレードおよび配置する必要があります。

続行する前に、Marketing Platform が正常にアップグレードされ、配置されたことを 確認してください。

ステップ:インストーラーを実行して構成プロパティーを更新する

インストーラーを実行する前に、Marketing Platform データベースおよび Marketing Operations データベースについて、適切なデータベース接続情報を保有していることを確認してください。

IBM インストーラーを実行し、使用するインストール・ディレクトリーとして、既存のインストール・ディレクトリーを指定します。詳しくは、17ページの『ステップ: IBM インストーラーを実行する』を参照してください。

インストーラーは、以前のバージョンがインストールされていることを検出し、 アップグレード・モードで実行されます。

- インストール・ウィザードの指示に従います。インストーラーが自動的にデータ ベースをアップグレードできることに注意してください。会社のポリシーが、こ の機能の使用をユーザーに許可していない場合は、ソフトウェアのインストール 後、Web アプリケーションを配置する前に、「手動データベース・セットアッ プ (Manual database setup)」オプションを選択してから手動でスクリプトを実 行します。
- インストーラーが完了したら、アップグレードされた Marketing Platform アプリ ケーションにログインします。「設定」>「構成」を選択します。 Marketing Operations カテゴリー内のプロパティーを確認し、現行バージョンの Marketing Operations で新たに導入されたパラメーターを設定または変更してください。

ステップ:手動によるデータベースのアップグレード (必要な場合)

IBM インストーラーでは、アップグレード中に Marketing Operations データベース をアップグレードできますが、そのような方法でデータベースをアップグレードす ることが自社の方針で許可されていない場合は、データベース・セットアップ・ユ ーティリティー (umodbsetup)を使用して、データベース・テーブルを手動でアップ グレードする必要があります。

umodbsetup ユーティリティーにより、以下のいずれかを実行します。

- オプション 1: Marketing Operations データベースでシステム・テーブルをアップ グレードし、必要なデフォルト・データをシステム・テーブルに追加します。
- オプション 2: データベースをアップグレードしてデータを追加するためのスク リプトをファイルに出力します (このファイルは、後で、ユーザーまたはデータ ベース管理者がユーザーのデータベース・クライアントで実行できます)。

環境変数の構成

umodbsetup ユーティリティーを実行する前に、以下の手順を実行して、環境変数を 適切に構成します。

 <IBM_EMM_Home>¥<MarketingOperations_Home>¥tools¥bin ディレクトリーで、 setenv ファイルを見つけ、テキスト・エディターで開きます。

- JAVA_HOME 変数が正しい Java インストール・ディレクトリーを示しており、 DBDRIVER_CLASSPATH 変数の最初の項目が JDBC ドライバーであることを確 認します。この環境変数の設定について詳しくは、17ページの『JAVA_HOME 環境変数の確認』を参照してください。
- 3. ファイルを保存して閉じます。
- 4. <*IBM_EMM_Home*>¥<*MarketingOperations_Home*>¥tools¥bin ディレクトリーで、 umo_jdbc.properties ファイルを見つけて開きます。
- 5. 以下のパラメーターの値を設定します。(例についてはファイル内のコメントを 参照してください。)
 - umo_driver.classname
 - umo_data_source.url
 - umo_data_source.login
 - umo_data_source.password
- 6. ファイルを保存して閉じます。

データベース・セットアップ・ユーティリティーの実行

コマンド・プロンプトまたは UNIX シェルで、

<IBM_EMM_Home>¥<MarketingOperations_Home>¥tools¥bin ディレクトリーに移動し ます。umodbsetup ユーティリティーを実行し、自身の状況に必要なパラメーターに 適切な入力データを指定してください。

例えば、次のコマンドは、アップグレードを実行し、ロケールを en_US に設定し て、ロギング・レベルを medium に設定します。

./umodbsetup.sh -t upgrade -L en US -1 medium

ユーティリティーについて指定できるすべての変数の説明は以下のとおりです。

表 7. umodbsetup.sh ユーティリティーの変数

変数	説明
-b	アップグレードの場合のみ。アップグレードしようとしているデー タベースの基本バージョンを識別します。
	デフォルトで、ユーティリティーは、アップグレードしようとして いるデータベースのバージョンを検出します。ただし、以前にデー タベースをアップグレードしようとしたときに何らかの形で失敗し ていた場合、アップグレードが失敗してもバージョンが更新されて いることがあります。問題を修正して再びユーティリティーを実行 するときには、この変数を -f 変数と共に使用して、正しい基本バ ージョンを指定してください。
f	アップグレードの堪合のみ「データベースで給出される基本バージ
- L	ョンをオーバーライドして、-b 変数で指定された基本バージョン がユーティリティーで使用されるようにします。-b 変数の説明を 参照してください。
-h	ユーティリティーのヘルプを表示します。

表7. umodbsetup.sh ユーティリティーの変数 (続き)

変数	説明
-1	umodbsetup ユーティリティーによって実行されるアクションから
	の出力を umo-tools.log ファイルに記録します。このファイルは
	<ibm_emm_home>¥<marketingoperations_home>¥tools¥logs ディレ</marketingoperations_home></ibm_emm_home>
	クトリーにあります。この変数はロギング・レベルを指定します。
	ロギング・レベルは、high、medium、または low に設定できま す。
-L	インストールのデフォルト・ロケールを設定します。例えば、ドイ
	ツ語版のインストールでは -L de_DE を使用してください。
	ロゲールについて有効な人刀値としては、
	de_DE, en_GB, en_US, es_ES, fr_FR, it_IT, ja_JP, ko_KR,
	pt_BR、 ru_RU、 zh_CN があります。
-m	スクリプトを <ibm_emm_home>¥<marketingoperations_home>¥tools</marketingoperations_home></ibm_emm_home>
	ディレクトリー内のファイルに出力します。このファイルは後で手
	動で実行することができます。このオプションは、データベース・
	クライアント・アプリケーションからスクリプトを実行する必要が
	ある場合に使用してください。この変数を使用すると、スクリプト
	が umodbsetup ツールによって実行されなくなります。
-t	データベース・インストールのタイプ。有効な値は full と
	upgrade です。例えば、-t full とします。
-V	冗長。

データベース・スクリプトの手動での実行 (必要な場合)

-m 変数を使用してスクリプトを出力し、データベース・クライアント・アプリケー ションから実行できるようにしてある場合は、ここで、そのスクリプトを実行して ください。

システム・テーブルをアップグレードしてデータを追加する前に plan.war ファイ ルを配置しないでください。

ステップ: アップグレードされた Web アプリケーションを配置し てアップグレード・プロセスを実行する

- 27ページの『第 5 章 IBM Marketing Operations の配置』で説明するように、 Marketing Operations をご使用の Web アプリケーション・サーバーに配置しま す。
- 2. アプリケーション・サーバーを再始動します。
- アプリケーションが稼働しているときに、ログインして、アップグレードが正し く行われたことを確認します。「設定」>「構成」を選択し、左側のリストに 「Marketing Operations」があることを確認します。その後、「Marketing Operations」セクションを展開して、「umoConfiguration」カテゴリーがリスト に含まれていることを確認します。
- 4. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。

5. スクロールダウンして、「Marketing Operations のアップグレード」をクリッ クします。アップグレード・プロセスのリストが表示されます。 これらのプロ セスは、データベース表と、サイトに特定のカスタマイズを保管するファイルと をアップグレードすることにより、アプリケーションの構成を変更します。

アップグレード・プロセスについて詳しくは、そのプロセスの横にある「**ヘル プ**」をクリックしてください。

6. 選択したプロセスを実行するには、「アップグレード」をクリックします。

手順: アップグレードの検証

以下の手順は、アップグレードが正常に終了したことを確認するために推奨されて います。

- 1. WAS_Profile_Home/logs/server1 ディレクトリーのログ・ファイルで、エラー・ メッセージがあるかどうかを確認します。メッセージ「UAPContext Init failed」 は、アップグレードが正常に完了しなかったことを示します。
- 2. Internet Explorer またはサポートされる他のブラウザーを使用して、IBM EMM URL にアクセスします。
- 3. 資産ファイルなどの、さまざまな Marketing Operations フィーチャーに移動しま す。
- 計画、プログラム、プロジェクト、独自のカスタム・マーケティング・オブジェ クト・タイプなど、さまざまな Marketing Operations オブジェクトのインスタン スを作成します。
- 5. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」を選択してか ら、「テンプレートの検証」をクリックします。
- インストール済み環境で Marketing Operations がアプリケーション・プログラミング・インターフェースによってカスタマイズされている場合、そのカスタマイズが互換性問題の影響を受けないことを確認してください。
- 7. トリガー手順を使用する場合は、それらを復元します。

ステップ:必要に応じてトリガー手順を復元する

トリガーを使用していた場合は、このタスクのステップを実行して、それらを復元 します。

 以前に作成したバックアップから、手順と procedure_plugins.xml ファイルを 復元します。それらをファイル用の以下のデフォルト・ロケーションに入れま す。

<IBM_EMM_Home>¥<MarketingOperations_Home>¥devkits¥integration¥ examples¥
src¥ procedure

- 必要な場合は、Marketing Operations インストール済み環境下の <*IBM_EMM_Home>*¥<*MarketingOperations_Home>*¥devkits¥ integration¥ examples¥ build ディレクトリーにある build ファイルを使用して、統合サー ビス手順を再ビルドします。
- 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「attachmentFolders」ページで、以下のパ ラメーターを更新します。前のステップで作成したディレクトリーを指すよう に、値を設定します。

- graphicalRefUploadDir を <IBM_EMM_Home>¥<MarketingOperations_Home>¥graphicalrefimages に設定し ます。
- **templateImageDir** を *<IBM_EMM_Home>*¥*<MarketingOperations_Home>*¥images に設定します。
- **recentDataDir** を *<IBM_EMM_Home>*¥*<MarketingOperations_Home>*¥recentdata に設定します。
- workingAreaDir を <IBM_EMM_Home>¥<MarketingOperations_Home>¥umotemp に 設定します。

クラスター環境での Marketing Operations のアップグレード

クラスター環境で Marketing Operations の複数のインスタンスをアップグレードす る場合には、以下のガイドラインを使用してください。

- Marketing Operations のすべてのインスタンスを配置解除します。
- この章の指示に従ってアップグレードします。
- ご使用の Web アプリケーション・サーバーの自動配置機能を使用して、クラス ター内の EAR ファイルを配置します。

付録 A. IBM 製品のアンインストール

以下の操作を行う場合、IBM 製品のアンインストールが必要になることがあります。

- システムの廃棄。
- システムからの IBM 製品の除去。
- システムでのスペースの解放。

IBM EMM 製品をインストールする際、アンインストーラーが Uninstall_Product ディレクトリーに組み込まれます。 Product は、IBM 製品の名前です。 Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リストへのエント リーの追加も行われます。

IBM アンインストーラーを実行すると、すべての構成ファイル、インストーラー・ レジストリー情報、およびユーザー・データがシステムから確実に削除されます。 アンインストーラーを実行する代わりにインストール・ディレクトリーからファイ ルを手動で削除すると、後で IBM 製品を同じ場所に再インストールする場合にイ ンストールが不完全になってしまう可能性があります。製品をアンインストールし ても、そのデータベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール 時に作成されたデフォルトのファイルのみを削除します。インストール後に作成ま たは生成されたファイルはいずれも削除されません。

IBM 製品をアンインストールするには

ご使用のシステムから IBM 製品を正しく削除するには、以下の手順に従ってください。

注: UNIX の場合、IBM EMM をインストールしたものと同じユーザー・アカウン トがアンインストーラーを実行する必要があります。

- 1. IBM 製品に Web アプリケーションが配置されている場合、 IBM EMM 製品の Web アプリケーションを WebSphere または WebLogic から配置解除します。
- 2. WebSphere または WebLogic をシャットダウンします。
- 3. 除去する製品に関連した実行プロセスをすべて停止します。

例えば、それらの製品をアンインストールする前に Campaign や Contact Optimization リスナー・サービスを停止します。

- 製品のインストール・ディレクトリーに ddl ディレクトリーがないかを確認し、存在する場合は、そこに用意されているスクリプトを実行してシステム・テーブル・データベースからテーブルを削除できます。
- 5. IBM EMM アンインストーラーを実行し、ウィザードの指示に従います。

アンインストーラーは Uninstall_Product ディレクトリーにあります。 Product は、IBM EMM 製品の名前です。 Uninstall_Product ディレクトリー は、製品のインストール・ディレクトリーにあります。 不在モードでインストールされた製品をアンインストールする場合は、アンイン ストールも不在モードで実行されます (ユーザー対話のためのダイアログは表示 されません)。

付録 B. configTool ユーティリティー

「構成」ページのプロパティーと値は、Marketing Platform システム・テーブルに保 管されます。 configTool ユーティリティーは、Marketing Platform システム・テー ブルに構成設定をインポートしたり、そこから構成設定をエクスポートしたりしま す。

configTool をいつ使用するか

configTool は、次のような目的で使用できます。

- Campaign に備わっているパーティションおよびデータ・ソースのテンプレートを インポートする。その後、構成ページを使って、それの変更および複製を行うこ とができます。
- 製品インストーラーがプロパティーをデータベースに自動的に追加できない場合 に IBM EMM 製品を登録する (その構成プロパティーをインポートする)。
- バックアップ用の構成設定の XML バージョンをエクスポートし、IBM EMM の 別のインストールにインポートする。
- 「カテゴリーの削除 (Delete Category)」リンクを持たないカテゴリーを削除する。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリーを作成する XML を手動で削除し、configTool を使用して、編集された XML をインポートします。

重要: このユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブル・データベ ース (構成プロパティーとその値が含まれている)の usm_configuration テーブル と usm_configuration_values テーブルを変更します。最良の結果を得るために、 それらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って既存 の構成をエクスポートし、生成されるファイルをバックアップしてください。そう することで、configTool を使ったインポートに失敗した場合に構成を復元すること ができます。

有効な製品名

configTool ユーティリティーは、このセクションの後半で説明するように、製品を 登録および登録解除するコマンドのパラメーターとして製品名を使用します。 8.0.0 リリースの IBM EMM では、多くの製品名が変更されています。しかし、 configTool によって認識される名前は変更されていません。 configTool で使用で きる有効な製品名を、現在の製品名とともに以下にリストします。

製品名	configTool で使用する名前
Marketing Platform	Manager
Campaign	Campaign
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Contact Optimization	Optimize

製品名	configTool で使用する名前
Marketing Operations	Plan
CustomerInsight	Insight
Digital Analytics for On Premises	NetInsight
PredictiveInsight	Model
Leads	Leads

構文

configTool -d -p "elementPath" [-o]

configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]

configTool -x -p "elementPath" -f exportFile

configTool -r productName -f registrationFile [-o]

configTool -u productName

コマンド

-d -p "elementPath"

構成プロパティー階層内のパスを指定して、構成プロパティーとその設定を削除し ます。

要素パスにはカテゴリーおよびプロパティーの内部名を使用する必要があります。 これは、「構成」ページに移動し、必要なカテゴリーまたはプロパティーを選択し て、右側のペインで括弧付きで表示されるパスを見ると分かります。 | 文字を使っ て構成プロパティー階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドは、アプリケーション全体ではなく、アプリケーション内のカテゴ リーとプロパティーだけを削除することができます。アプリケーション全体を登 録解除するには、-u コマンドを使用します。
- 「構成」ページに「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴリーを削除するに は、-o オプションを使用します。

-i -p "parentElementPath" -f importFile

指定された XML ファイルから構成プロパティーとその設定をインポートします。

インポートするには、カテゴリーのインポート先の親要素へのパスを指定します。 configTool ユーティリティーは、パス内で指定するカテゴリーの下に プロパティ ーをインポートします。

カテゴリーは最上位の下のどのレベルにでも追加することができますが、最上位カ テゴリーと同じレベルにカテゴリーを追加することはできません。 親要素パスにはカテゴリーおよびプロパティーの内部名を使用する必要がありま す。これは、「構成」ページに移動し、必要なカテゴリーまたはプロパティーを選 択して、右側のペインで括弧付きで表示されるパスを見ると分かります。 | 文字を 使って構成プロパティー階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

tools/bin ディレクトリーからの相対的なインポート・ファイル場所を指定する か、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。相対パスを指定した場 合、またはパスを指定しない場合、configTool は tools/bin ディレクトリーから 相対的な場所にあるファイルを最初に探します。

デフォルトでこのコマンドは既存のカテゴリーを上書きしませんが、-o オプション を使用して上書きを強制することができます。

-x -p "elementPath" -f exportFile

指定された名前の XML ファイルに構成プロパティーとその設定をエクスポートします。

すべての構成プロパティーをエクスポートすることも、構成プロパティー階層内の パスを指定することによって特定のカテゴリーにエクスポートを制限することもで きます。

要素パスにはカテゴリーおよびプロパティーの内部名を使用する必要があります。 これは、「構成」ページに移動し、必要なカテゴリーまたはプロパティーを選択し て、右側のペインで括弧付きで表示されるパスを見ると分かります。 | 文字を使っ て構成プロパティー階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーからの相対的なエクスポート・ファイル場所を指定するか、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。ファイルの指定に区切り文字 (Unix の場合は / で、Windows の場合は / または ¥) が含まれていない場合、 configTool は Marketing Platform インストールの下の tools/bin ディレクトリー にファイルを作成します。 xml 拡張子を付けない場合、configTool によってそれ が追加されます。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。 tools/bin ディレクトリーに相対する登録ファイ ルの場所を指定することも、絶対パスを指定することもできます。デフォルトでこ のコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用して上書きを強 制することができます。 productName パラメーターは、上記にリストしたいずれか でなければなりません。

次のことに注意してください。

-r オプションを使用する際、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして
 <application> を指定する必要があります。

Marketing Platform データベースに構成プロパティーを挿入するために使用できる ファイルが他に製品で提供されている場合があります。それらのファイルについ ては、-i オプションを使用します。最初のタグとして <application> タグがあ るファイルだけを -r オプションとともに使用できます。

- Marketing Platform の登録ファイルの名前は Manager_config.xml で、最初のタ グは <Suite> です。新規インストールでこのファイルを登録するには、 populateDb ユーティリティーを使用するか、「*IBM Marketing Platform インスト* ール・ガイド」にある説明に従って Marketing Platform インストーラーを再実行 します。
- 初期インストールの後、Marketing Platform 以外の製品を登録するには、-r オプションと -o とともに configTool を使用して、既存のプロパティーを上書きします。

-u productName

productName によって指定されたアプリケーションを登録解除します。製品カテゴ リーへのパスを含める必要はありません。製品名だけで十分です。 productName パ ラメーターは、上記にリストしたいずれかでなければなりません。これにより、製 品のすべてのプロパティーおよび構成設定が削除されます。

オプション

-0

-i または -r とともに使用すると、既存のカテゴリーまたは製品の登録 (ノード) を上書きします。

-d とともに使用すると、「構成」ページに「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴリー (ノード)を削除することができます。

例

 Marketing Platform インストールの conf ディレクトリーにある Product_config.xml という名前のファイルから構成設定をインポートします。

configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml

 提供されている Campaign データ・ソース・テンプレートの 1 つをデフォルトの Campaign パーティションである partition1 にインポートします。この例では、 Oracle データ・ソース・テンプレート OracleTemplate.xml が Marketing Platform インストールの tools/bin ディレクトリーにあることを前提としていま す。

configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f
OracleTemplate.xml

• D:¥backups ディレクトリー内の myConfig.xml という名前のファイルにすべての 構成設定をエクスポートします。

configTool -x -f D:¥backups¥myConfig.xml

 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーが完備されている) をエクスポートし、それを partitionTemplate.xml という名前のファイルに 保存し、Marketing Platform インストールのデフォルトの tools/bin ディレクト リーに保管します。

configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f
partitionTemplate.xml

 Marketing Platform インストールのデフォルト tools/bin ディレクトリーにある app_config.xml という名前のファイルを使って productName という名前のアプ リケーションを手動で登録し、このアプリケーションの既存の登録を強制的に上 書きします。

configTool -r product Name -f app_config.xml -o

• productName という名前のアプリケーションを登録解除します。

configTool -u productName

付録 C. IBM Marketing Operations 構成プロパティー

このセクションでは、「設定」>「構成」ページの IBM Marketing Operations 構成 プロパティーについて説明します。

Marketing Operations

supportedLocales

説明

IBM Marketing Operations のインストール済み環境で使用できるロケールを 指定します。実際に使用するロケールのみをリストしてください。リストす るロケールごとにサーバー上のメモリーが使用されます。使用されるメモリ ー量は、テンプレートのサイズと数によって変わります。

初期インストールまたはアップグレード後にロケールを追加する場合は、ア ップグレード・サーブレットを再実行する必要があります。詳しくは、アッ プグレードの資料を参照してください。

この値を変更した場合、その変更を有効にするには、Marketing Operations 配置を停止し、再始動する必要があります。

デフォルト値

en_US

defaultLocale

説明

IBM Marketing Operations において、Marketing Operations 管理者が特定の ユーザーについて明示的にオーバーライドしない限り、すべてのユーザーに 対して表示されるサポート・ロケールを指定します。

この値を変更した場合、その変更を有効にするには、Marketing Operations 配置を停止し、再始動する必要があります。

デフォルト値

en_US

Marketing Operations | navigation welcomePageURI

説明

IBM Marketing Operations 索引ページの Uniform Resource Identifier。この 値は、IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。この 値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

affiniumPlan.jsp?cat=projectlist

projectDetailpageURI

説明

IBM Marketing Operations 詳細設定ページの Uniform Resource Identifier. この値は、IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。 この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

ブランク

seedName

説明

IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変 更することは勧められていません。

デフォルト値

Plan

type

説明

IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変 更することは勧められていません。

デフォルト値

Plan

httpPort

説明

アプリケーション・サーバーで IBM Marketing Operations アプリケーショ ンとの接続に使用されるポート番号。

デフォルト値

7001

httpsPort

説明

アプリケーション・サーバーで IBM Marketing Operations アプリケーショ ンとのセキュア接続に使用されるポート番号。

デフォルト値

7001

serverURL

説明

IBM Marketing Operations インストールの URL。HTTP または HTTPS プロトコルのロケーターを受け入れます。

デフォルト値
http://<server>:<port>/plan

logoutURL

説明

内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

IBM Marketing Platform は、ユーザーがスイートでログアウト・リンクをク リックしたときに、この値を使用して、それぞれの登録済みアプリケーショ ンのログアウト・ハンドラーを呼び出します。

デフォルト値

/uapsysservlet?cat=sysmodules&func=logout

displayName

説明

内部的に使用されます。

デフォルト値

Marketing Operations

Marketing Operations | バージョン情報

「**Marketing Operations」>「バージョン情報**」構成プロパティーは、 IBM Marketing Operations インストール済み環境に関する情報をリストします。これらの プロパティーは編集できません。

displayName

説明

製品の表示名。

値

IBM Marketing Operations

releaseNumber

説明

現在インストールされているリリース。

値

<version>.<release>.<modification>

copyright

説明

著作権の年。

値

<year>

OS

```
説明
```

```
IBM Marketing Operations がインストールされているオペレーティング・シ
ステム。
```

值 <operating system and version>

java

説明

Java の現在のバージョン。

```
值 <version>
```

support

説明

文書を読み取り、サービス要求を出します。

値

http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request

appServer

説明

IBM Marketing Operations がインストールされているアプリケーション・サーバーのアドレス。

値

<IP address>

otherString

説明

値

ブランク

Marketing Operations | umoConfiguration

serverType

説明

アプリケーション・サーバー・タイプ。カレンダーのエクスポートに使用さ れます。

有効な値

WEBLOGIC または WEBSPHERE

デフォルト値

<server type>

usermanagerSyncTime

説明

```
スケジュール設定された IBM Marketing Platform との同期化の時間間隔 (ミリ秒)。
```

デフォルト値

10800000 (ミリ秒:3時間)

firstMonthInFiscalYear

説明

会計年度が開始する月を設定します。アカウントの「サマリー」タブには、 そのアカウントの各会計年度の月別予算情報をリストした表示専用テーブル があります。このテーブルの最初の月は、このパラメーターによって決まり ます。

1月は0で表されます。会計年度が4月に始まるようにするには、

firstMonthInFiscalYear を 3 に設定します。

有効な値

0から11の整数

デフォルト値

0

maximumItemsToBeRetainedInRecentVisits

説明

「最近使用した項目」メニューに表示する、最近表示したページへのリンク の最大数。

デフォルト値

10 (リンク)

maxLimitForTitleString

説明

ページ・タイトルに表示できる最大文字数。指定された文字数よりもタイト ルが長い場合、IBM Marketing Operations はタイトルを切り取って短くしま す。

デフォルト値

40 (文字)

maximumLimitForBulkUploadItems

説明

```
同時にアップロードできる添付ファイルの最大数。
```

デフォルト値

5 (添付ファイル)

workingDaysCalculation

説明

IBM Marketing Operations が期間を計算する方法を制御します。

有効な値

- bus: 営業日のみ、営業日のみを含みます。休日も週末も含まれません。
- wkd: 営業日 + 週末、営業日と週末を含みます。休日は含まれません。
- off: 営業日 + 休日、すべての営業日と休日を含みます。週末は含まれません。
- すべて: カレンダーのすべての日が含まれます。

デフォルト値

all

validateAllWizardSteps

説明

ウィザードを使用してプログラム、プロジェクト、または要求を作成すると きに、IBM Marketing Operations によって、現行ページの必須フィールドに 値が設定されているかどうかが自動的に検証されます。このパラメーター は、ユーザーが「終了」をクリックしたときに、Marketing Operations がす べてのページ (タブ)の必須フィールドを検証するかどうかを制御します。

有効な値

- True: Marketing Operations は、ユーザーが表示しなかったページの必須 フィールドを検査します (ワークフロー、トラッキング、添付ファイルを 除く)。必須フィールドがブランクの場合、ウィザードはそのページを開 き、エラー・メッセージを表示します。
- False: Marketing Operations は、ユーザーが表示しなかったページの必須 フィールドを検証しません。

デフォルト値

True

enableRevisionHistoryPrompt

説明

プロジェクト/要求または承認を保存するときに、ユーザーに、変更コメントを追加するよう求めるプロンプトが出されます。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

useForecastDatesInTaskCalendar

カレンダー・ビューでタスクを表示するときに使用される日付のタイプを指 定します。

有効な値

- True: 予測/実際の日付を使用してタスクを表示します。
- False: ターゲット日を使用してタスクを表示します。

デフォルト値

False

copyRequestProjectCode

説明

プロジェクト・コード (PID) を要求からプロジェクトに引き継ぐかどうか を制御します。このパラメーターを False に設定した場合、プロジェクト と要求は、異なるコードを使用します。

有効な値

True | False

```
デフォルト値
```

True

projectTemplateMonthlyView

説明

プロジェクト・テンプレートのワークフローで月次ビューが許可されるかど うかを制御します。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

disableAssignmentForUnassignedReviewers

説明

承認のために作業を役割別に割り当てる方法を指定します。

disableAssignmentForUnassignedReviewers パラメーターは、「スタッフ」 タブにある「役割別に作業を割り当て」の、ワークフロー承認における承認 者の割り当てに関する動作を制御します。

有効な値

- True: 「スタッフ」タブにおいて未割り当てのレビュー担当者は、新しい ステップとして承認に追加されません。
 - 追加オプション:所有者によって割り当てられた既存の承認者で、割り当てられた役割を持たないものは、変更されません。「スタッフ」タブに役割が「未割り当て」のレビュー担当者が存在しても、新しい承認者ステップは追加されません。

- 置換オプション:所有者によって割り当てられた既存の承認者で、役割 を持たないものは、ブランクに置き換えられます。「スタッフ」タブ に役割が「未割り当て」のレビュー担当者が存在しても、新しい承認 者ステップは追加されません。
- False: 未割り当てのレビュー担当者は、承認に追加されます。
 - 追加オプション: 定義された役割がない所有者割り当てステップが承認
 に存在する場合は、役割を持たないすべてのレビュー担当者が、レビュー担当者として承認に追加されます。
 - - 置換オプション:承認における既存の承認者は、「スタッフ」タブの未 割り当て承認者に置き換えられます。

デフォルト値

False

enableApplicationLevelCaching

説明

アプリケーション・レベルのキャッシングを有効にするかどうかを示しま す。キャッシング・メッセージのマルチキャストが有効になっていないクラ スター環境で最良の結果を得るには、Marketing Operations のアプリケーシ ョン・レベルのキャッシングをオフにすることを検討してください。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

customAccessLevelEnabled

説明

カスタム・アクセス・レベル (プロジェクトの役割) を IBM Marketing Operations で使用するかどうかを決定します。

有効な値

- True: プロジェクトおよび要求へのユーザー・アクセスは、オブジェクト・アクセス・レベルおよびカスタム・アクセス・レベル(プロジェクトの役割)に従って評価され、カスタム・タブのタブ・セキュリティーは有効になります。
- False: プロジェクトおよび要求へのユーザー・アクセスは、オブジェクト・アクセス・レベル (オブジェクトの暗黙的役割)のみに従って評価され、カスタム・タブのタブ・セキュリティーはオフになります。

デフォルト値

True

enableUniqueIdsAcrossTemplatizableObjects

プログラム、プロジェクト、計画、請求書を含むテンプレートから作成され たすべてのオブジェクトにおいて、固有の内部 ID を使用するかどうかを決 定します。

有効な値

- True に設定すると、テンプレートから作成されたすべてのオブジェクト において固有の内部 ID を使用できます。この構成を使用すると、オブジ ェクト・タイプが異なる場合でも、同じテーブルをシステムが使用できる ようになるため、オブジェクトをまたがるレポート作成が簡単になりま す。
- False に設定すると、テンプレートから作成されたすべてのオブジェクト において固有の内部 ID を使用できなくなります。

デフォルト値

True

FMEnabled

説明

財務管理モジュールを有効または無効にします。これにより、製品に「アカ ウント」、「請求書」、および「予算」のタブが表示されるかどうかが決ま ります。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

FMProjVendorEnabled

説明

プロジェクトの明細項目のベンダー列を表示または非表示にするために使用 されるパラメーター。

有効な値

```
True | False
```

デフォルト値

False

FMPrgmVendorEnabled

説明

```
プログラムの明細項目のベンダー列を表示または非表示にするために使用されるパラメーター。
```

有効な値

```
True | False
```

```
デフォルト値
```

```
False
```

Marketing Operations | umoConfiguration | Approvals specifyDenyReasons

説明

承認を拒否する理由のカスタマイズ可能なリストを有効にします。有効にされると、管理者は「承認拒否理由」リストにオプションを設定してから、拒 否理由を各ワークフロー・テンプレートおよびワークフローを定義する各プ ロジェクト・テンプレートに関連付けます。承認または承認に含まれる項目 を拒否するユーザーは、事前定義されたこれらの理由のいずれかを選択する 必要があります。

有効な値

True | False

```
デフォルト値
```

False

Marketing Operations | umoConfiguration | templates

重要: これらのパラメーター用に提供されたデフォルト値を変更することは勧めら れていません。

templatesDir

説明

すべてのプロジェクト・テンプレート定義を格納する XML ファイルを入れるためのディレクトリーを指定します。

絶対パスを使用してください。

デフォルト値

<IBM_EMM_Home>/<MarketingOperations_Home>/templates

assetTemplatesFile

説明

資産のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

asset_templates.xml

planTemplatesFile

説明

計画のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

plan_templates.xml

programTemplatesFile

説明

```
プログラムのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、
templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。
```

```
デフォルト値
```

```
program_templates.xml
```

projectTemplatesFile

説明

```
プロジェクトのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイル
は、templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。
```

デフォルト値

project_templates.xml

invoiceTemplatesFile

説明

請求書のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

invoice_templates.xml

componentTemplatesFile

説明

カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

component_templates.xml

metricsTemplateFile

説明

メトリックのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

metric_definition.xml

teamTemplatesFile

説明

チームのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

team_templates.xml

offerTemplatesFile

説明

オファーのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

uap_sys_default_offer_comp_type_templates.xml

Marketing Operations | umoConfiguration | attachmentFolders uploadDir

説明

```
プロジェクトの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/projectattachments

planUploadDir

説明

計画の添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/planattachments

programUploadDir

説明

```
プログラムの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations Home>/programattachments

componentUploadDir

説明

マーケティング・オブジェクトの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/componentattachments

taskUploadDir

説明

タスクの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/taskattachments

approvalUploadDir

説明

```
承認項目が保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/approvalitems

assetUploadDir

説明

資産が保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/assets

accountUploadDir

説明

```
アカウントの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

```
デフォルト値
```

<MarketingOperations_Home>/accountattachments

invoiceUploadDir

説明

```
請求書の添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/invoiceattachments

graphicalRefUploadDir

説明

```
属性イメージが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/graphicalrefimages

templateImageDir

説明

```
テンプレート・イメージが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/images

recentDataDir

説明

各ユーザーの最近のデータ (直列化済み) を保管する一時ディレクトリー。

<MarketingOperations_Home>/recentdata

workingAreaDir

説明

グリッドのインポート時にアップロードされた CSV ファイルを保管する一 時ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/umotemp

managedListDir

説明

```
管理対象のリスト定義が保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/managedList

Marketing Operations | umoConfiguration | Email notifyEMailMonitorJavaMailHost

説明

E メール通知メール・サーバーの DNS ホスト名またはそのドット形式の IP アドレスのいずれかを指定するストリング (オプション)。 SMTP サーバ ーのマシン名または IP アドレスに設定されます。

上記セッション・パラメーターを使用する既存の JavaMail セッションを IBM Marketing Operations に提供しておらず、委任が「完了」とマークされ ている場合は、このパラメーターが必要です。

デフォルト値

[CHANGE-ME]

notifyDefaultSenderEmailAddress

説明

有効な E メール・アドレスを設定します。システムは、通知 E メール・ メッセージを送信するための有効な E メール・アドレスがない場合には、 このアドレスに E メール・メッセージを送信します。

デフォルト値

[CHANGE-ME]

notifySenderAddressOverride

説明

このパラメーターを使用して、通知における「返信」および「差出人」の E メール・アドレスの標準値を指定します。デフォルトでは、これらのアドレ スには、イベント所有者の E メール・アドレスが設定されます。

デフォルト値

ブランク

Marketing Operations | umoConfiguration | markup

IBM Marketing Operations には、添付ファイルのコメントを作成するためのマーク アップ・ツールが用意されています。Adobe Acrobat マークアップまたはネイティ ブ Marketing Operations マークアップのいずれかを使用できます。使用するオプシ ョンを構成するには、このカテゴリーのプロパティーを使用します。

markupServerType

説明

使用するマークアップ・オプションを決定します。

有効な値

 SOAP を指定すると、ユーザーは PDF 文書のマークアップを編集および 表示できます。マークアップには Adobe Acrobat Professional が必要で す。これを指定した場合、ユーザーはネイティブ Marketing Operations メ ソッドを使用して Web ブラウザーで以前に作成されたマークアップを表 示できません。

SOAP を指定する場合は、markupServerURL および useCustomMarkup パラ メーターも構成する必要があります。

- MCM を指定すると、ユーザーが Web ブラウザーでマークアップを編集お よび表示できるネイティブ Marketing Operations マークアップ・メソッド を使用できます。これが指定された場合、ユーザーは、以前に Adobe Acrobat を使用して PDF で作成されたマークアップを編集することも表 示することもできません。
- ブランクの場合、マークアップ機能は無効になり、「マークアップの表示/追加」リンクは表示されません。

デフォルト値

МСМ

markupServerURL

説明

markupServerType = SOAP に依存します。

マークアップ・サーバーをホストするコンピューターの URL を設定します (Web アプリケーション・サーバーが listen に使用するポートの番号を含み ます)。この URL には、完全修飾ホスト名が含まれていなければなりませ ん。

HTTP または HTTPS プロトコルのロケーターを受け入れます。

デフォルト値

http://<server>:<port>/plan/services/collabService?wsdl

useCustomMarkup

Windows ユーザーが 「Acrobat コメントの送受信 (Acrobat Send Receive Comments)」ボタンを使用してマークアップ・コメントを送受信できるかどうかを決定します。

有効な値

 True: Windows ユーザーはマークアップ・コメントを送受信するのに 「Acrobat コメントの送受信 (Acrobat Send Receive Comments)」ボタ ンのみ使用できます。クライアント・サイドの Acrobat インストール済 み環境の javascripts フォルダーで UM0_Markup_Collaboration.js ファイ ルが利用可能でなければなりません。

markupServerType = SOAP に依存します。

 False: Windows ユーザーはマークアップ・コメントを送受信するのに Marketing Operations 「コメントの送信 (Send Comments)」カスタム・ボ タンのみ使用できます。Acrobat ボタンは使用できません。IBM Marketing Operations コメント・ツールバーを使用できるように Acrobat を構成する必要があります。 PDF ファイルのレビューについて詳しく は、「IBM Marketing Operations ユーザー・ガイド」を参照してくださ い。

デフォルト値

True

instantMarkupFileConversion

説明

True の場合、IBM Marketing Operations は、ユーザーがマークアップの項目を初めて開くときに PDF 添付資料からイメージへの変換を実行するのではなく、PDF 添付資料がアップロードされるとすぐにこの変換を実行します。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | grid

gridmaxrow

説明

グリッドで取得される最大行数を定義する整数 (オプション)。デフォルトの -1 の場合は、すべての行が取得されます。

デフォルト値

-1

reloadRuleFile

グリッド検証プラグインを再ロードする必要があるかどうかを示すブール・ パラメーター (オプション)。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

gridDataValidationClass

説明

カスタム・グリッド・データ検証クラスを指定するパラメーター (オプション)。指定しない場合は、デフォルトの組み込みプラグインがグリッド・デ ータ検証に使用されます。

デフォルト値

ブランク

tvcDataImportFieldDelimiterCSV

説明

グリッドにインポートされたデータの解析に使用する区切り文字。デフォルトはコンマ (,) です。

デフォルト値

, (コンマ)

maximumFileSizeToImportCSVFile

説明

TVC のコンマ区切りデータをインポートするときにアップロードできる最 大ファイル・サイズ (MB) を表します。

デフォルト値

0 (無制限)

maximumRowsToBeDisplayedPerPageInGridView

説明

グリッド・ビューの1ページ当たりの表示行数を指定します。

有効な値

正整数

デフォルト値

100

griddataxsd

説明

グリッド・データ XSD ファイルの名前。

デフォルト値

griddataschema.xsd

gridpluginxsd

説明

グリッド・プラグイン XSD ファイルの名前。

デフォルト値

gridplugin.xsd

gridrulesxsd

説明

グリッド・ルール XSD ファイルの名前。

デフォルト値

gridrules.xsd

Marketing Operations | umoConfiguration | workflow hideDetailedDateTime

説明

```
タスク・ページにおける詳細な日時のパラメーターの表示/非表示パラメー
ター (オプション)。
```

有効な値

True | False

デフォルト値

False

daysInPastRecentTask

説明

このパラメーターは、タスクが「最新」と見なされる期間を決めます。タス クが「アクティブ」であり、開始されてからの期間がこの日数未満である か、またはタスクの「ターゲット終了日」が現在日付とこの日数前の日付と の間にある場合、そのタスクは最新のタスクとして表示されます。

有効な値

正整数

デフォルト値

14 (日)

daysInFutureUpcomingTasks

このパラメーターは、将来の何日間について次回のタスクを検索するかを決定します。タスクが次の daysInFutureUpcomingTasks の期間に開始する場合、または現在日付の前に終了しない場合、そのタスクは次回のタスクとなります。

有効な値

正整数

デフォルト値

14 (日)

beginningOfDay

説明

営業日の始業時間。このパラメーターは、小数形式の期間を使用したワーク フローの日時の計算に使用されます。

有効な値

0から12の整数

デフォルト値

9 (9 AM)

numberOfHoursPerDay

説明

1 日当たりの時間数。このパラメーターは、小数形式の期間を使用したワー クフローの日時の計算に使用されます。

有効な値

1から24の整数

デフォルト値

8 (時間)

mileStoneRowBGColor

説明

ワークフロー・タスクの背景色を定義します。この値を指定するには、色を 表す 6 文字の 16 進コードの前に # 文字を挿入します。例えば、#0099CC と指定します。

デフォルト値

#DDDDDD

Marketing Operations | umoConfiguration | integrationServices enableIntegrationServices

サード・パーティー・ユーザーが Web サービスおよびトリガーを使用して IBM Marketing Operations 機能にアクセスするために使用できる統合サービ ス・モジュールを有効および無効にします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

integrationProcedureDefinitionPath

説明

```
カスタム・プロシージャー定義 XML ファイルへの絶対ファイル・パス (オ
プション)。
```

デフォルト値

<IBM_EMM_Home>/<MarketingOperations_Home>/devkits/integration/
examples/src/procedure/procedure-plugins.xml

integrationProcedureClasspathURL

説明

カスタム・プロシージャーのクラスパスへの URL。

デフォルト値

file:///<IBM_EMM_Home>/<MarketingOperations_Home>/devkits/ integration/examples/classes/

Marketing Operations | umoConfiguration | campaignIntegration defaultCampaignPartition

説明

IBM Marketing Operations が IBM Campaign と統合されていると、このパ ラメーターは、プロジェクト・テンプレートに campaign-partition-id が定義 されていない場合にデフォルトの Campaign パーティションを指定します。

デフォルト値

partition1

webServiceTimeoutInMilliseconds

説明

Web サービス統合 API 呼び出しに追加されます。このパラメーターは、 Web サービス API 呼び出しのタイムアウトとして使用されます。

デフォルト値

1800000 ミリ秒 (30 分)

Marketing Operations | umoConfiguration | reports

reportsAnalysisSectionHome

説明

分析セクション・レポートのホーム・ディレクトリーを示します。

デフォルト値

/content/folder[@name='Affinium Plan']

reportsAnalysisTabHome

説明

```
分析タブ・レポートのホーム・ディレクトリーを示します。
```

デフォルト値

/content/folder[@name='Affinium Plan - Object Specific Reports']

cacheListOfReports

説明

このパラメーターは、オブジェクト・インスタンスの分析ページにおけるレポート・リストのキャッシングを有効にします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | invoiceRollup

invoiceRollupMode

説明

ロールアップがどのように発生するかを指定します。許容値は以下のとおり です。

有効な値

- immediate: 請求書が支払い済みとマークされるたびに、ロールアップが 発生します。
- schedule: スケジュールに基づいてロールアップが発生します。

このパラメーターが schedule に設定されると、システムは以下のパラメ ーターを使用して、ロールアップ発生のタイミングを決定します。

- invoiceRollupScheduledStartTime
- invoiceRollupScheduledPollPeriod

デフォルト値

immediate

invoiceRollupScheduledStartTime

説明

invoiceRollupMode が schedule である場合、このパラメーターは以下のように使用されます。

- このパラメーターに値 (例えば、11:00 pm) が含まれている場合、その値 は、スケジュールが開始するための開始時刻となります。
- このパラメーターが未定義の場合は、サーバーの始動時にロールアップ・ スケジュールが開始します。

invoiceRollupMode が immediate である場合、このパラメーターは使用さ れません。

デフォルト値

11:00 pm

invoiceRollupScheduledPollPeriod

説明

invoiceRollupMode が schedule である場合、このパラメーターは、ロール アップが発生するためのポーリング期間 (秒) を指定します。

invoiceRollupMode が immediate である場合、このパラメーターは使用されません。

デフォルト値

3600 (1 時間)

Marketing Operations | umoConfiguration | database

fileName

説明

```
JNDI 検索を使用してデータ・ソースをロードするためのファイルへのパス。
```

デフォルト値

plan_datasources.xml

sqlServerSchemaName

説明

使用するデータベース・スキーマを指定します。このパラメーターは、IBM Marketing Operations データベースに SQL Server を使用している場合にの み適用されます。

デフォルト値

dbo

db2ServerSchemaName

重要: このパラメーター用に提供されたデフォルト値を変更することは勧められて いません。

説明

IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。

デフォルト値

ブランク

thresholdForUseOfSubSelects

説明

その数を超えたら (リスト・ページ用) SQL の IN 節で実際のエンティティ - ID ではなく副照会を使用する必要があるレコード件数を指定します。こ のパラメーターを設定すると、大量のアプリケーション・データを持つ IBM Marketing Operations インストール済み環境のパフォーマンスが向上し ます。ベスト・プラクティスとして、パフォーマンスの問題が発生しない限 りこの値を変更しないでください。このパラメーターがないか、あるいはコ メント化されている場合、データベースは、しきい値が大きな値に設定され るかのように動作します。

デフォルト値

3000 (レコード)

commonDataAccessLayerFetchSize

説明

このパラメーターは、パフォーマンスに影響されやすい特定の重要な照会に ついて、結果セットの取り出しサイズを指定します。

デフォルト値

0

commonDataAccessLayerMaxResultSetSize

説明

このパラメーターは、パフォーマンスに影響されやすい特定の重要な照会に ついて、結果セットの最大サイズを指定します。

デフォルト値

-1

useDBSortForAllList

説明

このパラメーターは、すべての IBM Marketing Operations リスト・ハンド ラーを構成するために使用されます。特定のリストのページング動作をオー バーライドするには、別の useDBSortFor<module>List パラメーターを使用 します。

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForPlanList

説明

このパラメーターは、計画リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForProjectList

説明

このパラメーターは、プロジェクト・リスト・ハンドラーを構成するために 使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForTaskList

説明

このパラメーターは、タスク・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForProgramList

このパラメーターは、プログラム・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForApprovalList

説明

このパラメーターは、承認リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForInvoiceList

説明

このパラメーターは、請求書リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForAlerts

説明

このパラメーターは、アラート・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

Marketing Operations | umoConfiguration | listingPages listItemsPerPage

説明

1 つのリスト・ページに表示される項目 (行) の数を指定します。この値 は、0 より大きくなければなりません。

デフォルト値

10

listPageGroupSize

説明

リスト・ページのリスト・ナビゲーターに表示されるページ番号のサイズを 指定します。例えば、ページ1-5は、ページ・グループです。この値 は、0より大きくなければなりません。

デフォルト値

5

maximumItemsToBeDisplayedInCalendar

説明

カレンダーに表示されるオブジェクト(計画、プログラム、プロジェクト、 またはタスク)の最大数。このパラメーターは、ユーザーがカレンダー・ビ ューを選択した場合に表示するオブジェクトの数を制限します。数値 0 は、制限がないことを示します。

デフォルト値

0

listDisplayShowAll

説明

リスト・ページに「すべて表示」リンクを表示します。

デフォルト値

False

有効な値

True | False

Marketing Operations | umoConfiguration | objectCodeLocking enablePersistentObjectLock

説明

IBM Marketing Operations がクラスター環境に配置されている場合は、この パラメーターを True に設定する必要があります。データベースにおいてオ ブジェクト・ロック情報は永続的です。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

lockProjectCode

説明

ユーザーがプロジェクトの「サマリー」タブでプロジェクト・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockProgramCode

説明

ユーザーがプログラムの「サマリー」タブでプログラム・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockPlanCode

説明

ユーザーが計画の「計画サマリー」タブで計画コードまたは PID を編集で きるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockMarketingObjectCode

説明

ユーザーがマーケティング・オブジェクトの「サマリー」タブでマーケティ ング・オブジェクト・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定しま す。

有効な値

• True: ロックを有効にします。

• False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockAssetCode

説明

ユーザーが資産の「サマリー」タブで資産コードまたは PID を編集できる かどうかを決定します。

有効な値

• True: ロックを有効にします。

• False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

Marketing Operations | umoConfiguration | thumbnailGeneration trueTypeFontDir

説明

True Type フォントが存在するディレクトリーを指定します。このパラメー ターは、Aspose を使用する非 Windows プラットフォームでサムネールを 生成するために必要です。 Windows インストール済み環境の場合、このパ ラメーターはオプションです。

デフォルト値

ブランク

coreThreadPoolSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・プールに保持される永 続スレッド数を指定します。

デフォルト値

5

maxThreadPoolSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・プールで許可される最 大スレッド数を指定します。

デフォルト値

10

threadKeepAliveTime

サムネール・ジェネレーター・スレッドのキープアライブ時間を構成するた めのパラメーター。

デフォルト値

60

threadQueueSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・キュー・サイズを構成 するためのパラメーター。

デフォルト値

20

disableThumbnailGeneration

説明

アップロードされた文書のためにサムネール・イメージを生成するかどうか を決めます。値 True は、サムネールの生成を有効にします。

デフォルト値

False

有効な値

True | False

markupImgQuality

説明

レンダリングされるページに適用される拡大率またはズーム係数。

デフォルト値

1

Marketing Operations | umoConfiguration | Scheduler | intraDay schedulerPollPeriod

説明

バッチ・ジョブが、プロジェクトの正常性ステータスの実行を毎日計算する 際の頻度を秒数で定義します。

注: 日次のバッチ・ジョブだけが、レポートで使用されるプロジェクトの正 常性ステータスの履歴を更新します。

デフォルト値

60 (秒)

Marketing Operations | umoConfiguration | Scheduler | daily schedulerStartTime

説明

プロジェクトの正常性ステータスを計算するバッチ・ジョブの開始時刻を定 義します。このジョブは、以下のことも行います。

- レポートで使用されるプロジェクトの正常性ステータスの履歴を更新します。
- E メール通知を配信登録しているユーザーへの配布を開始します。

注: システムがこのバッチ・ジョブを開始するのは、計算がまだ実行されて いない場合だけです。ジョブが intraDay パラメーターとは異なる時刻に、 そしてユーザーがこの計算を手動で要求する可能性の低い時刻に開始するよ うに、このパラメーターを定義してください。

11:00 pm

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications notifyPlanBaseURL

説明

IBM Marketing Operations 配置の URL (ホスト名とポート番号を含む)。 Marketing Operations では、Marketing Operations 内の他の情報へのリンクを 含む通知に、この URL が組み込まれます。

注: メール・クライアントと IBM Marketing Operations サーバーが同じマ シンで稼働している場合以外は、サーバー名として「localhost」を使用しな いでください。

デフォルト値

http://<server>:<port>/plan/affiniumplan.jsp

notifyDelegateClassName

説明

サービスによってインスタンス化される委任実装の完全修飾 Java クラス 名。このクラスは、com.unicacorp.afc.service.IServiceImpl インターフ ェースを実装する必要があります。指定しない場合は、デフォルトでローカ ル実装になります。

デフォルト値

ブランク

notifyIsDelegateComplete

説明

委任実装が完了したかどうかを示すブール・ストリング (オプション)。指定 しない場合は、デフォルトで True に設定されます。

デフォルト値

デフォルト値

True

有効な値

True | False

notifyEventMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めてイベント通知モニターの処理が 開始される時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:45 pm な どが考えられます。

デフォルト値

ブランク (Marketing Operations の始動の直後。)

notifyEventMonitorPollPeriod

説明

イベント・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよそ の時間(秒)を定義します。ポーリング期間とポーリング期間の間、イベン トはイベントキューに累積されます。ポーリング期間が短いほど通知の処理 が早く行われますが、システムのオーバーヘッドが大きくなる場合がありま す。既定値を削除して値をブランクのままにすると、ポーリング期間はデフ ォルトで短時間(通常は1分未満)に設定されます。

デフォルト値

5 (秒)

notifyEventMonitorRemoveSize

説明

1回でキューから削除するイベント数を指定します。イベント・モニターは、イベント・キューからイベントを、この値で指定された数ずつキューが空になるまで削除します。

注: イベント処理のパフォーマンスを向上させるために、この値を 1 以外 の数に設定することもできます。ただし、削除されたイベントが処理される 前にサービス・ホストがダウンした場合にイベントが失われる恐れがありま す。

デフォルト値

10

alertCountRefreshPeriodInSeconds

アラート数に関するシステム全体のアラート数リフレッシュ期間(秒)を指 定します。この数は、ユーザーのログイン後にナビゲーション・バーの上部 付近に表示されます。

注:マルチユーザー環境では、リフレッシュ期間を変更してポーリングを高速にすると、パフォーマンスに影響が出る場合があります。

デフォルト値

180 (3 分)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | Email notifyEMailMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて E メール・モニターが処理を 開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。

デフォルト値

ブランク (IBM Marketing Operations の始動の直後。)

notifyEMailMonitorPollPeriod

説明

E メール・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間(秒)を定義します。

注: イベントと同様に、ポーリング期間とポーリング期間の間、E メール・ メッセージはキューに累積されます。ポーリング時間が短いほど E メー ル・メッセージが早く送信されますが、システムのオーバーヘッドが大きく なる場合があります。

デフォルト値

60 (秒)

notifyEMailMonitorJavaMailSession

説明

E メール通知に使用する、既存の初期化済み JavaMail セッションの JNDI 名。これが未指定であり、委任が「完了」とマークされている場合は、IBM Marketing Operations がセッションを作成できるように JavaMail ホスト・ パラメーターを指定する必要があります。

デフォルト値

ブランク

notifyEMailMonitorJavaMailProtocol

E メール通知に使用するメール・サーバー・トランスポート・プロトコルを 指定します。

デフォルト値

smtp

notifyEMailMonitorRemoveSize

説明

1 回にキューから削除する E メール・メッセージ数を指定します。E メー ル・モニターは、E メール・キューからメッセージを、この値で指定された 数ずつ削除し、これをキューが空になるまで続けます。

注: E メール処理のパフォーマンスを向上させるために、この値を 1 以外 の数に設定することもできます。ただし、削除された E メール・メッセー ジが処理される前にサービス・ホストがダウンした場合、メッセージが失わ れる恐れがあります。

デフォルト値

10 (メッセージ)

notifyEMailMonitorMaximumResends

説明

最初の送信試行が失敗した E メール・メッセージの送信を試行する最大回 数を指定します。送信が失敗した場合、E メールは、このパラメーターで許 可される最大試行回数に到達するまでキューに戻されます。

例えば、notifyEMailMonitorPollPeriod が 60 秒ごとにポーリングするよう設定されているとします。この notifyEMailMonitorMaximumResends プロ パティーを試行回数 60 に設定すると、E メール・モニターは失敗したメッ セージを各ポーリングにつき 1 回 (つまり毎分)、最大 1 時間まで再送信を 試みます。値 1440 (24x60) を設定した場合、E メール・モニターは、1 分 間隔で最大 24 時間試行します。

デフォルト値

1 (試行)

showUserNameInEmailNotificationTitle

説明

IBM Marketing Operations 通知およびアラート・システムで、E メール通知 の「差出人」フィールドにユーザー名を入れるかどうかを指定します。

注: この設定は、IBM Marketing Operations の通知およびアラート・システ ムによって送信される E メール・メッセージにのみ適用されます。

有効な値

- True: Marketing Operations はメッセージ・タイトルの後ろにユーザー名 を追加し、その両方を E メールの「差出人」フィールドに表示します。
- False: Marketing Operations はメッセージ・タイトルのみを「差出人」 フィールドに表示します。

デフォルト値

False

notifyEMailMonitorJavaMailDebug

説明

JavaMail デバッグ・モードを設定するかどうかを指定します。

有効な値

- True: JavaMail デバッグを有効にします。
- False:デバッグ・トレースを無効にします。

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | project notifyProjectAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めてプロジェクト・アラーム・モニ ターが実行される時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。デフォルトを削除し、値をブランクのままにすると、こ のモニターは、作成された直後に開始します。

デフォルト値

10:00 pm

notifyProjectAlarmMonitorPollPeriod

説明

プロジェクト・アラーム・モニターおよびプログラム・アラーム・モニター がポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間(秒)を定義 します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyProjectAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

プロジェクトの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザー に通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProjectAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

プロジェクトの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザー に終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledStartCondition

説明

タスクの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザー開始通 知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledEndCondition

説明

タスクの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了 通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskLateCondition

説明

タスクの開始日の何日後に、IBM Marketing Operations がユーザーに、タス クが開始しなかったことを示す通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskOverdueCondition

説明

タスクの終了日の何日後に、IBM Marketing Operations がユーザーに、タス クが終了しなかったことを示す通知を送信するかを定義します。 注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しま せん。

デフォルト値

3 (日)

$notify {\tt ProjectAlarmMonitorTaskScheduledMilestoneCondition}$

説明

マイルストーン・タスクの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations が通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | projectRequest

notifyRequestAlarmMonitorLateCondition

説明

要求が遅れているという通知を IBM Marketing Operations が送信する日数 を定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3(日)

notifyRequestAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

要求の終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了通 知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | program notifyProgramAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

プログラムの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに 開始通知を送信するかを定義します。 **注:** この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProgramAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

プログラムの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに 終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3(日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | marketingObject

notifyComponentAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

マーケティング・オブジェクトの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに開始通知を送信するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyComponentAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

マーケティング・オブジェクトの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | approval notifyApprovalAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて承認アラーム・モニターが処理 を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。デフォルトを削除し、この値をブランクのままにする と、モニターは、作成された直後に開始します。

注:最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ処理のロードを分散します。

デフォルト値

9:00 pm

notifyApprovalAlarmMonitorPollPeriod

説明

承認アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおお よその時間(秒)を指定します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyApprovalAlarmMonitorLateCondition

説明

承認の開始日の何日後に、システムがユーザーに承認が遅れていることを通知し始めるかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3(日)

notifyApprovalAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

承認の終了日の何日前に、システムが終了通知をユーザーに送信し始めるか を指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | asset notifyAssetAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて資産アラーム・モニターが処理 を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの
java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。デフォルトを削除し、この値をブランクのままにする と、モニターは、作成された直後に開始します。

注:最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ処理のロードを分散します。

デフォルト値

11:00 pm

notifyAssetAlarmMonitorPollPeriod

説明

資産アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープする時間 (秒)を指定します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyAssetAlarmMonitorExpirationCondition

説明

資産が期限切れになる何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに対して資産がもうすぐ期限切れになることを通知するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations は有効期限をチェックしません。

デフォルト値

5 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | invoice notifyInvoiceAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて請求書アラーム・モニターが処 理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。デフォルトを削除し、値をブランクのままにすると、モ ニターは、作成された直後に開始します。

注: 最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク 時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、デー タ処理のロードを分散します。

デフォルト値

9:00 pm

notifyInvoiceAlarmMonitorDueCondition

説明

期日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに対して請求書の期日が近づいていることを通知するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しま せん。

デフォルト値

5 (日)

IBM 技術サポートへの連絡

文書を参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通 じて IBM 技術サポートに電話することができます。 このセクションの情報を使用 するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデー タ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられること があります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」 ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM のアプリ ケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「**ヘルプ」>「バージョン情報」**を選択することによ り表示できます。 「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM アプ リケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある version.txt ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番 号を入手できます。

IBM 技術サポートのコンタクト情報

IBM 技術サポートとの連絡を取る方法については、 IBM 製品技術サポートの Web サイト (http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照して ください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントでログインする必要がありま す。可能な場合、このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があり ます。アカウントを IBM 顧客番号に関連付ける方法については、Support Portal の 「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してく ださい。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合 があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサー ビスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用 可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所 有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを 使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサー ビスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む)を 保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実 施権を許諾することを意味するものではありません。 実施権についてのお問い合わ せは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的 に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随 時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を 行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。 それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプロ グラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の 相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする 方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation 170 Tracer Lane Waltham, MA 02451 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができま すが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、 IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれ と同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定された ものです。 そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値 が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。 さらに、一 部の測定値が、推定値である可能性があります。 実際の結果は、異なる可能性があ ります。 お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要がありま す。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公 に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行 っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の 要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それら の製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回 される場合があり、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行 価格であり、通知なしに変更されるものです。 卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。よ り具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品 などの名前が含まれている場合があります。 これらの名称はすべて架空のものであ り、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎませ ん。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を 例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されていま す。 お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラット フォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプ リケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式 においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが できます。 このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを 経ていません。 従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、 利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。 これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態で提供されるも のであり、いかなる保証も提供されません。 IBM は、お客様の当該サンプル・プ ログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示さ れない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。 他の製品名およびサービス名等は、そ れぞれ IBM または各社の商標である場合があります。 現時点での IBM の商標リ ストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件の考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」)では、製品の使用に関する情報の収集、エン ド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のた めに、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。 Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピ ューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。 多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご 使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類する テクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体 的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、 お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれ のお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie お よび持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効 にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできま せん。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令 等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie および さまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能 を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイ ドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意 取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関す る方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件 (例えば、プライバシー・ ポリシー) への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者の コンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置するこ とを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、 および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含むさまさまなテクノロジーの使用について詳しく は、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他 のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan